

*The
annual report*

St.Luke

2019

2019.1.1▶2019.12.31



医療法人 セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 卷頭言 | 1 |
| 一年を振り返って | |
| 医 局 | 4 |
| 看護部 | 6 |
| 心理専門相談室 | 8 |
| 研究室・培養室 | 9 |
| 受 付 | 10 |
| 情報処理室 | 11 |
| 厨 房 | 12 |
| 診療統計 | |
| 開院から2019年までの成績 | |
| 当院の患者数・妊娠に至った主たる有効治療 | 14 |
| 妊娠の転帰・出産結果 | 15 |
| 初診後妊娠までの期間 | 16 |
| 不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断 | 16 |
| 腹腔鏡検査後妊娠までの期間 | 16 |
| IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率 | 17 |
| ART(生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠 | 17 |
| 35歳未満・体外受精1回目の妊娠率 | 17 |
| 妊娠数 | 18 |
| 2019年一年間の成績 | |
| 外来患者数・初診患者数 | 20 |
| 手術・入院数 | 21 |
| 妊娠の内訳(妊娠に至った主たる有効治療・妊娠の転帰) | 22 |
| 出産結果・異常児の詳細 | 23 |
| ART(生殖補助医療)による妊娠 | 24 |
| ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況 | 24 |
| 不妊治療費助成金申請内訳 | 25 |
| セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ | 28 |
| 行事一覧 | 29 |
| 著書(共著)一覧・論文一覧 | 37 |
| セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明 | 38 |
| スタッフ配置・有資格者 | 42 |
| 病院概要 | 43 |

卷頭言

宇津宮 隆史

今年の話題はなんといっても武漢コロナであろう。2020年は、やっとこぎつけた着床前胚異数性検査(PGT-A)の特別臨床研究が開始され、夏には東京オリンピックでウキウキ気分だろうと期待していたが、それに水を差す100年に一度以上の規模になってきたコロナで、すっかり様変わりした。それが全世界にほとんど同時期に、ほとんど同じような状態が発生している。おそらく収束するには2~3年かかると思われる。

さてそのような未曾有の状況で、武漢コロナとこの生殖医療を行うこととの関連はどうか。アメリカ生殖医学会(ASRM)はいち早く、不要不急の生殖医療は控えるようにという勧告を出した(3月17日)。日本生殖医学会も同じ意見を表明した(4月1日)。この生殖医療を束ねている大御所2か所からの声明は、我々に「ショック」と言えるほどの影響を与えた。「明日からの診療はどうすればよいのか」という疑問は、まず、毎日顔を見ている、特に、妊娠困難な患者さん方の顔が浮かび、その方々への対処はどうするかに結びついた。また、既に計画している採卵や胚移植、入院・手術などはどうするか。「どうするか」と、「患者さんはどうしたいか」をどう関連付け、また「どうするべきか」が交錯して判断に苦しむことになった。患者さんはどう思っているか?これは患者さんに聞いてみなければわからない。そこで早速、NPO法人Fine~現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会~の松本亜樹子氏に、「できるだけ早く患者さんに意見を聞いてほしい」とメールを送った(4月2日)。すると早速返事が返ってきた(4月3日23:24)。皆、同じように、通院経路上やクリニックでの感染、その為に治療中止、治療開始の中止、クリニックの方針、そして武漢コロナの収束不明のなかで年齢を重ねてしまう不安、助成金の制限年齢を過ぎる不安など、様々な不安があるが、できるだけ注意しながら治療を続けたい意見が多いことが分かった。そこで当院では、ASRMと日本生殖医学会の声明をもとに、患者さんに周期毎の治療開始時に意志を聞き、同意書を取って診療を進めることとした。

同時に日本生殖補助医療標準化機関(JISART)でも声明文を出すべきとの意見が多く、何度かのメール会議のうちにJISART独自の声明文が出された(4月10日)ことは大きな意味があった。ASRMの声明は(アメリカの実情からはやむを得ないかもしれないが)生殖補助医療(ART)の体外受精(IVF)、胚移植(ET)どころか、人工授精(IUI)さらにタイミング法もしない、特にETは中止することを強く求め、手術や検査も延期、そしてこの期間に推奨することは、今行っている治療の意義をこの機会に改めて考えてみると、そしてその中には、非配偶者間ARTや養子縁組などもオプションとして考える機会にすべきことなど、それこそ不妊治療は不要不急と言わんばかりであった。時期が早かった所為もあり、妊娠に与える影響が危惧され、その情報が少なかったからであろう。厚生労働省が出た声明(4月1日)で少し安心できたのであった。おかしなことに、不妊治療を抑制する言葉はあっても、広く国民に妊娠することは避けるようにとは誰も言っていない。

我々は、不妊診療を不要不急ではなく、必要至急であると常日頃から思って診療を行っているのである。武漢コロナは想像を超えて各国の国民生活、経済、政治、そして医療に影響を及ぼしている。患者さんがそれらを十分理解したうえで検査、治療を希望すればその気持ちに沿うのが我々のるべきことであろう。するために考えられる十分な対策を行い、その結果である生まれてくる子どもの健康状態までしっかりと把握するのが責務であろう。

さて、待ちに待った PGT-A が今年から臨床研究に入った。全国 100 か所以上が参加意思を表明しているようで、数十か所以上からデータが集積されるものと思われる。パイロットスタディでは症例数が少なかつたため、効果判定では有意差が出なかったが、実際の数字からは大いに期待できると思われる。しかし、実臨床の場面からは、妊娠したいだけでなく、結果が良くないと予想していてもその詳細を知りたい、そしてその結果から次のステップをどうするか考え直したいという切実な患者さんの気持ちが感じられ、またそう表明されることが多い。実際、結果説明でよくない結果を伝えるのは緊張するが、意外に、納得いった、という言葉を聞き、思いがけなく感じることがある。また、それらの患者さんはこれ以外にはステップアップする段階がないと背水の陣で臨んでいる方が多く、それに応えるには、極力効率の良い、早く結果の出る方法を選ばねばならない。その日に向かって、ご夫婦で態勢を作ること、生活習慣を健康に保つこと（喫煙者は当院出入り禁止）、サプリなど有効と思われるもの、また男性もストレスのない、ゆったりした生活を心掛けて臨むよう促している。そして医療側としても、効率よく良好な卵子を多数得ること、それには適切な卵巣刺激法が必要である。

2017 年の JISART の採卵方法による 1 個以上の卵子採取率、妊娠率の違いを見ると、自然周期法で 79.6%、4.1%、低刺激法で 94.7%、16.7% であるが、調節刺激法では 98.2%、36.0% と、格段に調節刺激法が優れている。患者さんにとってストレスとなる採卵という小手術、これは一定割合で副作用、副損傷も必ず見られるので、可及的にその機会（採卵）を少なくする義務がある。卵巣過剰刺激症候群（OHSS）は今や Gn-RHa、レトロゾールやレルミナ、カバサールなどが出回り、それらを組み合わせれば、一度に多数の卵子採取と安全な術後が可能である。我々はこれらを用いて一度で多数の卵子を得て速やかに PGT へ進む方法に習熟する技術を持たねばならない。

当院が開院して 28 年が経過した。開院当初、ART は手探りの状態で、クリーンルームはおろか、胚培養液も自作していた。それには超純水が必要とのことがわかって、超純水装置を設置したが、それがうまく作動せず、ミリポアに替えてうまくいくようになったとか、顕微授精を行うための針をパストール・ピペットから作成するにあたって、その形状や曲げる角度などの情報をひそかに仕入れてくるとか、顕微授精を学びに行ったが、肝心の精子不動化のところは見せてもらえなかったとか、今では考えられないと思う。このような景色は日本中、世界中が同様であった。当時は世界の方が進んでおり、日本は遅れていた。その中で日本全国の 400 程の ART 施設のなかから 14 施設が集まって JISART が設立された。いかにして少しでも多くの患者さんに喜んでもらえるか、その為にはいかにして世界に後れを取らないか、をいち早く世界から取り入れ、皆で学び、日本全体のレベル向上を目指した。そしていまや日本の ART は世界に誇る質と数を提示できるようになった。

当院が開院して 4 半世紀以上が経過し、今、この生殖医療の世界は当初とは全く異なった部分が目立ってきた様に思う。確かに使用機器や薬剤、培養方法の進化やゲノム医療に関する倫理、哲学等の参画によって、考えるべきこと、解決すべきことが多くなった。しかしその根底の理念は子どもが欲しい患者さんの期待に真正面から向き合うことであろう。そのためには、アカデミアの成果と実臨床の実績が統合され、分析された生殖医療が適切に配分される必要がある。現在の日本には、実際に数多くの治療を行い、その成果をまと

め、分析し、何らかの提案ができる組織は JISART しか無い。日本医療研究開発機構（AMED）の ART で生まれた子ども 3,000 人を 15 歳までフォローするプロジェクトは JISART がその実際を担っている。これはアカデミアの側も JISART の実態をよく理解しているから可能になっている。JISART は自信を持たねばならない。それとともに責任も求められているのである。JISART の理念・歴史から考えても、易きに傾くことはないはずである。日本の生殖医療は優秀なアカデミアの成果と JISART の実績でその方向性が決められるくらいの矜持を持たねばならない。そのため JISART は質の高い、実力のある、アカデミアに提案できる組織でなければならない。決して「質」を落としてはならない。

武漢コロナは子どもたちのシェルターである別府平和園にも大きな影響を及ぼしている。春休みや夏休みとは違った、ただ学校に行かず、園内で過ごすという、子どもたちにとってストレスフルな毎日であった。そのような日常において、保育士らの明るく忍耐強い働きに感謝の念を覚える。熊本・大分地震の際に全員が一致団結してあの恐怖を克服したように、今回も素晴らしい指導者の下に職員が身を粉にして子どもたちの指導に当たっていることが見える。平和園は外部から多くの支援を得ていることはありがたいことである。おかげで今回、ある方のご遺志により、今までにない額の寄付によって、子どもたちに直接支援できることを条件に「基金」が設立でき、これは子どもたちの奨学資金に充てることになった。そしてそれ以外にも、コロナで大変な状態であると思われるにもかかわらず、各方面から「このような時勢ですので」という言葉と共に多くの支援が送られてきたことは、ありがとうございました。今後も別府平和園をよろしくご支援ください。

一年を振り返って

医局

伊東 裕子

2019年4月に福岡大学よりセント・ルカ産婦人科へ参りました伊東裕子です。

新しい環境とリズムで日々を過ごしてきたことと、年明けからは新型コロナウイルス感染症に対する感染防御対策とで、あっという間に1年が経ったように思います。

振り返れば、当院も研究分担施設でありました日本産科婦人科学会PGT-A(着床前胚異数性検査)パイロットスタディの結果が集約報告されました。その結果から引き続き臨床試験として開始される予定であることを受け、対象希望者に対して随時説明を行いながら準備してきました。その開始を「8月の会議で承認されれば」「10月に承認されれば」と、今か今かと待ちわびている患者ご夫婦から、年齢によってはこの数か月が大変長いもの、そして期待が大きいものなのだと感じました。2020年1月より日本産科婦人科学会PGT-A特別臨床研究が開始となり、現在も多くのご夫婦が勉強され治療に進まれています。

2019年6月の第26回セント・ルカセミナーにおいては、吉村泰典先生、石原理先生、桑原章先生、八尾竜馬先生、加藤武馬先生、田村智英子先生、土持貴志先生方よりPGT-Aをテーマにご講演いただきました。大変内容の濃いものとなり、引き続き遺伝関連の学会やセミナーにも出来るだけ参加し、不妊治療領域での着床前検査を産科や小児科の先生方からみた意見も拝聴できることから幅広い視野で学んでいく重要性を感じました。この新しい治療法によって少しでも負担を減らして早く妊娠につながればと願います。その為にも、当院の果たすべき役割をそれぞれの立場がそれぞれの働きをし、一丸となって行っていく所存です。

また、2020年1月には、市民公開講座「若い女性で増えているがん 予防するためには」をテーマに吉村泰典先生、宮川勇生先生、久保田陽子先生、がんサバイバーの阿南里恵さんらよりご講演いただきました。当院でも若年がん患者さんへの精子凍結・卵子凍結を行っていますが、がんの予防の段階から啓蒙していく大切さも感じました。

この一年このような新しい取り組みに加わるなかで、日々の臨床のなかでも色々な着眼点をもって考えることができました。子宮外妊娠や子宮筋腫核出術後妊娠、体外受精出生児の予後などを今一度振り返って検討し、今後に繋げていければと思います。

自粛生活のなか、ご夫婦の本気で向き合う姿勢と覚悟を改めて感じることができました。2020年後半がどのような世の中になるかまだ分かりませんが、しっかりと地に足をつけて取り組んで参りたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

一年を振り返って

医局

甲斐 由布子

昨年の年報を読むと、令和に改元され気分も新たに爽やかな初夏を迎えていたことが思い出されます。新しい元号にも慣れて新年を迎え、当院でもようやく着床前診断の臨床研究が開始になり、対象となる患者さんに少し希望の光が見えてきました。

しかし、同時期から新型コロナウイルス感染が発生し広まりつつありました。その後数ヵ月にわたって世界中が外出自粛生活を必要とし、私たちも様々な講演会や学会が中止となり勉強の機会が減りました。楽しみにしていた行事も中止され、外出など気兼ねなく過ごしていた普通の生活の有難さを実感している毎日です。

その渦中の2020年4月1日に日本生殖医学会から「妊娠中の新型コロナウイルス感染による母体、胎児に対する影響が明らかでは無く、妊娠中の治療法も確立していないため、新型コロナウイルス流行中の不妊治療について患者さんに延期を推奨すること」という声明が発表されました。この声明はネットニュースなどで取り上げられ、不妊治療中の患者さんや不妊治療に従事する私たちにも衝撃を与えました。実際に東京などでは全ての治療を中止しているクリニックもあるようで、当院にも「不妊治療が続けられなくなるか?」という患者さんからの問い合わせが相次ぎました。当院ではJISART(日本生殖補助医療標準化機関)に加盟している先生方とも協議のうえ、診療の際に万全な感染予防対策を行い、患者さんにリスクを説明し希望される方のみご夫婦の同意を得て不妊治療を継続することになりました。声明発表後も年齢や治療期間を問わず治療継続を望まれる方は多く、不妊治療は当事者にとって不要不急の医療ではなく、1ヵ月でも無駄にはできない「必要至急」だということを改めて感じました。

全国を対象に出されていた緊急事態宣言が解除された後、学会から5月18日に「患者さんごとの背景を考慮し、感染のリスクを説明したうえで治療再開を考慮してください」との通知が出されました。今後も長く続くと思われる感染症の流行状況に対応しながら、できる限り患者さんの希望に沿って治療を継続できるよう、当院でも感染予防等に留意してまいります。

また今回ウイルス感染予防のための休校で中高生が自宅待機となり、緊急避妊の相談が増えているようです。このことから、やはり思春期の頃からのしっかりとした性教育の必要性を感じました。残念ながら今年は当院が主催してきた大分性教育セミナーが中止となりましたが、今後もこのような機会で子どもの頃からの性教育を行えるよう、看護師を中心に協力して計画していきたいです。

早いもので、私も今年度で常勤となって5年目を迎えました。当院卒業後に赤ちゃんを連れて面会に来られた患者さんから、「先生に胚移植していただいたんですよ!」と言っていただけることもあります。とてもうれしく思います。今後も生殖医療専門医としての知識に合わせて自分自身の治療体験も活かし、治療に携わっていきたいと思います。

一年を振り返って

看護部

川村 智恵

今年は私にとっても誰にとっても人生で最も印象深い年の一とと言えるのではないでしょか。前代未聞の事が次々と起こり、今なお全世界がその渦中にはあります。

東京オリンピックの年となるはずが、新型コロナウイルスの流行により世界中の価値観やシステムを変えなければならなくなりました。生活は今までとは一変し、仕事のあり方も大きな変革を求められています。

患者のみなさんそれぞれに大きな影響があったことと思います。日本生殖医学会から不妊治療を受ける患者さんにはリスクを説明し、可能なら治療を延期するよう声明が出されました。私たちは心苦しい説明をしなければならず、患者さんは難しい決断をしなければならなかつたことだと思います。

私は当初大半の方が治療をしないのでは?と思っていました。確かに毎日の患者さんの人数は減りましたが、一方で予想以上に採卵や手術を希望される方がいらっしゃいました。様々な理由から「コロナがあっても治療を早くしたい」とお考えの患者さんが多いことに驚きました。この先どうなるのかわからない状況です。それでも強く治療を希望されるのだと、改めて患者さん方がこの不妊治療にかける切実な思いを感じました。

私自身の事を申しますと、セント・ルカに勤めて11年ほどになります。自分でも驚くほど長くこの病院で働かせて頂いています。セント・ルカでは一味も二味も違ったことを学ばせて頂き、ここでしかできないような経験を数多くさせてもらっています。

入職した頃は本当に何も知らず、先輩方から一般常識、基本的マナーから教えていただき、年一回のセント・ルカセミナーの準備、運営、様々な係の仕事、学会発表のやり方など以前の病院では知る事のなかったことを数多く教えていただきました。

入職時にはセント・ルカのチームワーク、院長先生のバイタリティ、手先の器用さにもとても驚いたことを覚えています。先生の硬膜外麻酔のスピード、手術はすごい速さなのにとてもきれいなことは、看護師の行う処置とは違いますが、仕事への姿勢、技術を磨くという点で見習う事ばかりで、今でも日々勉強の毎日です。生殖医療は新しく覚えなくてはならないことが次々と出てきます。また、自分が後輩・新人の教育に関わることも多くなり、教育の難しさ、自分の力の足りなさに苦慮しています。

患者さんは仕事や時間やお金など生活の大きな部分を割いてルカに通ってこられているでしょう。そんな患者さんにはみなさん幸せになっていただきたいと思っています。今後も日々勉強し、患者さんが通院しやすく、また、不妊治療を終えた時、ルカの通院が良い思い出となるような医療・看護を提供したいと思います。

一年を振り返って

看護部

坂本 順子

いつの間にか日中は汗ばむほどの季節となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により季節の移ろいを感じる余裕もなく、4月に日本生殖医学会からの声明により生殖医療を取り巻く環境は大きく変わりました。それに伴い当院も方針を出し、予定していたセミナーの開催中止や患者さん向けの新患教室や体外受精教室などは動画配信へ変更となり、スタッフは手袋、マスク、フェイスシールドを装着し、試行錯誤の感染予防対策を行いながら診療に奮闘する日々が続いています。

私がセント・ルカ産婦人科へ入職して約10年の月日が経過しました。

面接の際に院長先生から「医療者、看護師の心構え」についてお話しして頂き、感銘を受けたことが昨日の事のように思い出されます。その際に、以前の所在地であった津守からJR大分駅南口への移転を控えていることを知り、移転までに早く仕事を覚えなくてはと不安と焦りがありました。

10年間を振り返ると、院内での看護業務は固定の場所ではなく、外来、病棟、採卵室、手術室と日によって配置が変わるために、覚える事も多く大変でしたが、その分、患者さんと多岐にわたり関わる事ができました。他に国内の学会や研究会への参加や研究発表、2018年には生殖医療相談士の資格取得のため半年間にわたり一ヶ月に一度、週末に東京へ行き、全国から参加した志を共にする医療関係者と生殖医療の知識と心理についての講義を受講し、2019年無事に資格取得する事が出来ました。

2019年6月にはウィーンで開催されたESHRE(ヨーロッパ生殖医学会)にも参加させていただきました。PGT-A(着床前胚異数性検査)の発表が多く最先端の不妊治療の技術、看護を実際に見て学ぶ事が出来ました。一年遅かったら新型コロナウイルス感染症の影響で参加できなかつたため運が良かったと思います。

生殖医療の看護経験がなく初めての事に戸惑う事も多くありましたが、院長先生をはじめ多くの先輩方に支えられ今日があります。看護部に新しく入ってくれた仲間のプリセプターとして自分自身も日々精進し、患者さんが安心して治療に臨めるような環境を提供していきたいと思います。

一年を振り返って

心理専門相談室

雲井 小夜子

私はセント・ルカ産婦人科に入職してまだ1年目で、これまで産婦人科領域の中でも、妊婦健診開始後から出産を経て乳児健診に来られる方へ助産師として関わってきました。縁あってセント・ルカ産婦人科で心理士として勤務させていただくことになり、最先端の不妊治療や体外受精、顕微授精等の高度な生殖補助医療がどのように行われているのかは未知の世界で、目にするもの耳にするもの、経験することは初めてのことばかりで、日々勉強を積んでいるところです。

妊娠に至るまでへの知見が広がっただけでなく、以前から気になっていた不妊治療がその後の妊娠～出産～育児に与える影響についての疑問が少し解けたり、その繋がりが見えてきたように思える部分もあります。

不妊治療後妊娠の方は定期に入った後や出産後も不安を感じやすかったり、妊娠・出産をゴールと捉えがちでその先の育児へのイメージを持ちにくい面が見受けられ、より細かなケアの必要性を感じることがありました。その背景にある心性を十分理解できていなかったのですが、不妊治療の現場を目の当たりにし悩んでいる方の相談を受け、「目の前の壁をなかなか越えられないんです」「壁がたくさんあります先のことまで考えられないんです」等のことばをお聞きして、常に安心できず次々とやって来る多くの困難を一つ一つ乗り越える経験をされてきた故だと感じました。そして、医療が発達したとはいえ、どんなに努力を続けても必ずしも良い結果が出るとは限らず、「本当に子どもを授かることができるのだろうか、それはいつなのか？」先が見えない治療であり、身体的・精神的・経済的負担も大変大きく、治療に臨まれているご夫婦の苦しみ、つらいお気持ちを量り知れないものがあると思いました。

数年に亘って不妊治療を続けて精神的に苦しい時期には数回の心理相談を受け、顕微授精を繰り返して妊娠に至った方の出産をお手伝いさせていただいたことがあります。奥様の陣痛の痛みを少しでも和らげようとご主人が腰をさすったり手を握りながら一生懸命サポートされ、無事元気な男の子を出産されました。ご夫婦で涙をホロホロ流しながら生まれてきた赤ちゃんをギューッと抱きしめ、「やっと会えた…」と本当に嬉しそうにされていたのが印象的で、一組でも多くのご夫婦にこのような喜びを味わってほしいと願います。

また、不妊治療を受けている期間はご夫婦の結婚生活やそれぞれの人生の大切な一時期です。お二人で様々な選択や意思決定を迫られ、時にはぶつかりあうこともあるでしょうが、ご夫婦力を高める機会もありますので、より良い夫婦関係への支援を行っていきたいと考えています。上野桂子先生のご指導を賜りながら、院長はじめスタッフと協同し、通院される方が安心して治療を受けられるようにサポートしていくたいと思います。

一年を振り返って

研究室・培養室

小池 恵

2019年、培養室の最も大きな出来事は、日本産科婦人科学会主導によるPGT-A（着床前胚異数性検査）特別臨床研究がスタートしたことです。

これまでPGT-Aパイロットスタディを踏まえてたくさんの準備を重ね、ようやく患者さんの希望にお応えできるようになりました。PGT-Aで必要となる細胞生検はとても繊細な操作を必要とするため、生検をしているスタッフはもちろんのこと、周りで見ているスタッフも緊迫した雰囲気で行っています。現在、PGT-Aについての意識調査を、体外受精教室を受講する患者さんにお願いしていますが、PGT-Aに対する期待と不安、倫理的な問題について多くの意見を頂いています。今後も患者さんに対してより正確な情報と丁寧な説明を行いながら進めていく必要があると感じています。

今回の臨床研究はこれまでのパイロットスタディよりも対象となる方が多く、培養室内でも情報の共有など、これまで以上に気を引き締めて取り組んでいきたいと思います。

培養室にとって嬉しいニュースがありました。当院から3人目の管理胚培養士が誕生したことです。8人の培養室に3人も管理胚培養士の先輩方がいることはとても贅沢なことです。先輩方の仕事、研究に対する姿勢を見習わなければと日々感じています。

2020年1月には吉村泰典先生（慶應義塾大学 名誉教授）をお招きし、市民公開講座「女性特有のがん 予防するためには」が開催され、当院からは大分県内のがん患者における生殖医療の現在の状況についてお話をさせていただきました。これまで当院は2013年より、がん・生殖医療について大分県内での啓蒙活動を行ってきました。その成果もあり、2017年に発足したがん・生殖医療フォーラム大分の先生方のご協力も賜ることができ、たくさんの方にご参加いただきました。会の中では多くの質問も寄せられ、盛況に終わりました。今後も大分県内での啓蒙活動を続けていく必要性を強く感じています。

私は大学でマウスの低温生物学を学んでいたこともあり、これまでマウスを用いた研究テーマを持たせていただいてきました。そして現在、取り組んでいる研究テーマは「抗がん剤投与によるマウスの妊娠性への影響」です。血液疾患、乳がんなどの医学的適応を目的とした妊娠性温存のために卵子凍結を希望する患者さんが、抗がん剤の治療を受けた後に当院を受診するケースがあります。このような場合に採取できた卵子の安全性について検討することを目的として、抗がん剤投与後の受精や、胚発育などを検討してきました。今後は卵子のクオリティについても検討していく予定です。

入社して今年であつという間の17年目を迎えました。胚培養士という職業を知り、自分が目指すべき道はこれだ！と思った時の気持ちをこれからも忘れることなく、ただひたすらに患者さんのために努力することを惜しまず邁進していきたいと思います。

一年を振り返って

受付

青木 桜

昼も汗ばむ季節へと変わりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で未だ経験したことのない季節を迎えようとしています。

セント・ルカに入職して、早いもので5年が経ち、6年目となりました。この一年を振り返ると、あっという間に過ぎていった怒濤の一年だったと思います。

まず、6人体制だった受付は、先輩の産休・育休に伴い5人体制へと人数が1人減った中での業務となりました。人数が少ない中でどのようにして患者さんを待たせることなく、受付の業務をスムーズに行なうことが出来るのかを考え、時には今までのやり方を変えることもありました。

また、PGT-A(着床前胚異数性検査)特別臨床研究が始まり、週に1度行っている全体ミーティングにて、院長先生より遺伝についての知識を教えていただき、患者さんの問い合わせや相談の窓口となる受付もまた、生殖医療の知識とは別に、遺伝子レベルの知識を勉強するようになりました。

さらに、昨年は性教育セミナーの担当として、講師の先生方との事務連絡や後援をいただいた方との書類のやり取りをさせていただきました。準備段階から携わったことでその大変さを身に染みて感じ、参加された方の「また参加したい」「参加してよかったです」などの声をいただいた時は、初めて経験する事ばかりでしたが、セミナーが無事終了した時の安堵感と達成感は何にもかえがたいものがありました。また、セミナーがどのようにして開催されているのかを知る貴重な機会をいただけたと思います。

様々な経験を通して、指示のある任された仕事をこなすだけではなく、どのようにして動けば良いのか自らが率先して動くという事を考えて過ごした一年であったように感じます。

入職し6年目となる現在でも、院長先生をはじめセント・ルカの進化は目まぐるしいものがあります。不可能だった事が可能となり、受付としてどのように患者さんに寄り添うことができるのか、何を求められているのか考え、患者さんがより通院しやすくなるよう、様々な変化に柔軟に対応できるように心掛けていきたいと思います。

私事ではありますが、2020年より受付主任を拝命しました。お話をいただいた時は、今の私に務まるのかという不安と驚きでいっぱいでしたが、今、何が必要で何をしなければいけないのかを考え、常に前進あるのみで私自身も成長し、進化できるよう邁進していきたいと思います。

一年を振り返って

情報処理室

瀬戸口 美和

歳月人を待たずと言いますが、気づけばもう初夏となり、1年があつという間に過ぎていくのを感じます。私がセント・ルカに入職してまもなく3年半が過ぎようとしています。入職初日の新年会にて、院長先生や先輩方の前で自身の抱負を話す機会があり、人前で話すことが苦手な自分にとっては心臓が口から飛び出しそうなくらい、とても緊張して頭が真っ白になったことが、今でも昨日のことのように思い出されます。

人前で話すことに関しては、毎週の全体ミーティングの「一人一言」の時間に鍛えていただき、少しづつですが緊張せずに話せるようになってきたと感じています。このように、ルカでは様々な機会を与えていただくことで、日々鍛えてもらっていると感じています。自分の得意分野などを見つめなおすことも多く、院長先生はじめ先輩方に鼓舞されることで、もっと自身をブラッシュアップせねばと思いながら仕事に励んでいます。

情報処理室の仕事は日々のSarahBaseへのデータ入力、統計および年報作成、院長先生の出張手配やホームページの管理、院内システムの管理に関してなど多岐にわたりますが、特に印象に残っている仕事は、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）で行っている、生殖補助医療で出生した児の長期予後調査に携わらせていただいていることです。この調査は、不妊治療で出生した児の身体、精神発達について12歳まで2年ごとにアンケートを用いて行うもので、今後の生殖医療の発展において重要な役割を果たすのではないかと思います。情報処理室ではJISART（日本生殖補助医療標準化機関）各施設に対して調査が滞りなく進むよう実務面での役割を担っています。書類の準備等、小さな仕事ではありますが、後世にも残るような調査に携わらせていただけることは、今後の自分の人生にとっても大変貴重な経験だと思います。2008年より始まったこの調査は、終了するまでまだあと数年ありますが、少しでも調査がスムーズに進むよう、微力ながら力を尽くしていきたいと思います。

情報処理室の近況ですが、2019年末に2年9ヵ月勤めた1名が退職しました。振り返ると彼女にはとても支えられていたと感じる日々です。同じ時期には1名が入職し、新入職員とはいえ、私自身教えてもらうことも多く、部署内に新しい風が吹いたようで、とても良い刺激をもらっています。情報処理室がさらなるレベルアップができるよう、皆で協力し、日々の業務に向き合っていく所存です。

最後に、2020年1月に主任職を拝命しました。浅学非才の若輩者ではありますが、これまで以上に視野を広げ、先輩方のように周りから頼りにされる人材になれるよう、自身のすべきことを悩み考え、前を見てがむしゃらに仕事に励みたいと思います。

一年を振り返って

厨房

油野 亜由美

セント・ルカに入職して、10年が経とうとしています。入職当時を振り返れば、初めてのことだけで、不安でいっぱいだったことを思い出します。

そもそも入職して初めて、“不妊”について考えるようになったと思います。そしてそれは、身近であるということを知りました。不妊治療に関して知識のないところからのスタート。ルカで作成している「赤ちゃん～今ならきっと授かる」本、新患教室や体外受精教室、赤ちゃん～今ならきっと授かる～講座などに参加し、学び、段々と理解を深めることができました。

また、スタッフとのコミュニケーションが取れるのかという不安もありました。しかし、ありがたいことに、ルカには年間行事がたくさんあることや、以前の所在地であった津守からの移転もあり、他部署のスタッフとの接点も多く、時間とともに不安は解消してきた気がします。

ルカの行事の中で厨房2人の気合いが入ってしまうのが、クリスマス会です。日本では定番のクリームのケーキではなく、パン教室の先生から教わった、シトーレンやフルーツケーキなど外国のケーキを作ります。外国のお菓子は寝かせた方が美味しいので、クリスマス会が始まる3ヵ月前から準備を始めます。そして他にもリースパン、クッキーハウスなどを作っています。クリスマス会の終盤、クッキーハウスを壊される時は、少し切なくなりますが、参加された方々が感動してくださったり、作ったものを美味そうに食べてくださっている様子を見ると、頑張ってよかったと嬉しくなります。

最近では、スキルアップの為、院外に出て、大分県栄養士会が主催する研修会に参加させていただいています。研修会では様々な講師先生から講義をしていただき、最新の情報や方法などを学んでいます。知識がないことは不安の要因でしかありません。しっかり学び、正しい知識を付けていきたいと思います。

現在は新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか思うようにいかなくなり、今後どうなるのかという不安もありますが、だからこそ出来ることを見つけ、行動していきたいと思います。

ルカがJR大分駅上野の森口に移転して、患者さんが増えました。その分、食物アレルギーを持っている方も増えてきています。今後は、慣れで流れ作業にならないよう気を引き締め、一つひとつ丁寧な仕事を心掛けていきたいと思います。

患者さんの唯一の楽しみともいえる食事をもっと楽しみにしていただけるよう、新しいメニューーやアレンジなども考えていき、これからも、患者さんやスタッフの活力となる食事を提供していきたいと思います。



診療統計

開院から2019年までの成績



開院から2019年までの成績

(1992.6.3～2019.12.31)

当院の患者数

1) 開院(1992.6.3)～本年(2019.12.31)までの外来患者数 29,111人

| | | | |
|----------------------------------|---------|-----------------|---|
| (内訳) | 男性 | 10,847人 (37.3%) | (平均年齢34.3才) |
| | 正常 | 5,736人 (52.9%) | |
| | 異常 | 4,689人 (43.2%) | |
| | 未検査・未診断 | 422人 (3.9%) | |
| | 女性 | 18,264人 (62.7%) | (平均年齢32.3才) |
| ・拳児希望の女性 | | 14,166人 (77.6%) | (平均年齢32.2±4.7才) |
| ・2018年1年間の拳児希望女性 | | 413人 | (平均年齢34.2±4.8才) |
| ・妊娠件数 | | 9,311件 | (平均年齢32.8±4.4才) |
| ・妊娠に至らなかった女性 | | 6,418人 | |
| 2) 妊娠率(患者あたり) | | 54.7% | $\{(14,166 - 6,418) / 14,166\}$ |
| 3) 治療を途中で諦めた女性 | | 6,347人 (44.8%) | |
| A) 諦めざるをえなかった人(無精子症, 早発閉経, 高齢など) | | 1,681人 (11.9%) | |
| B) いつの間にか諦めた人 | | 4,666人 (32.9%) | |
| 4) 実妊娠率(Aを除く患者あたり) | | 62.1% | $\{(14,166 - 6,418) / (14,166 - 1,681)\}$ |
| 5) 実妊娠率(A,Bを除く患者あたり) | | 99.1% | $\{(14,166 - 6,418) / (14,166 - 6,347)\}$ |

妊娠に至った主たる有効治療

| ART(生殖補助医療)全体 | 4,498例 | (48.3%) |
|-------------------|--------|----------|
| IVF-ET(体外受精) | 695例 | (7.47%) |
| MF-ET(顕微授精) | 1,204例 | (12.93%) |
| CRYO-ET(凍結胚移植) | 2,556例 | (27.45%) |
| GIFT(配偶子卵管内移植法) | 38例 | (0.41%) |
| ZIFT(接合子卵管内移植法) | 5例 | (0.05%) |
| ART(生殖補助医療)以外 | 4,813例 | (51.7%) |
| IUI(選別精子子宮内注入法) | 817例 | (8.77%) |
| hMG+hCG, Gn-RHa | 1,059例 | (11.37%) |
| クロミフェン | 508例 | (5.46%) |
| ヒューナーテスト, タイミング指導 | 922例 | (9.90%) |
| HSG(子宮卵管造影法)直後 | 725例 | (7.79%) |
| 腹腔鏡検査後自然妊娠 | 571例 | (6.13%) |
| 腹腔鏡検査および子宮鏡手術 | 4例 | (0.04%) |
| 腹腔鏡下子宮筋腫核出術 | 12例 | (0.13%) |
| リンパ球免疫療法 | 15例 | (0.16%) |
| その他 | 180例 | (1.94%) |
| 計 | 9,311例 | (100%) |

妊娠の転帰

| | | |
|--------------------|--------|----------|
| 分娩病院へ紹介済 | 6,654例 | (71.47%) |
| 流産 | 2,298例 | (24.68%) |
| 異所性妊娠 | 233例 | (2.50%) |
| 胞状奇胎 | 14例 | (0.15%) |
| 中絶(風疹感染 NT 肥厚のため等) | 3例 | (0.03%) |
| 不明 | 109例 | (1.17%) |
| 計 | 9,311例 | (100%) |

出産結果(分娩病院へ紹介済の6,654例中、妊娠結果が判明している6,315例について)

1) 妊娠結果

| | | |
|---------------|--------|----------|
| 満期産 | 5,538例 | (87.69%) |
| 満期産+死産* | 6例 | (0.09%) |
| 満期産+異所性妊娠* | 1例 | (0.02%) |
| 満期産+人工妊娠中絶* | 1例 | (0.02%) |
| 早産 | 562例 | (8.90%) |
| 早産+死産* | 10例 | (0.16%) |
| 過期産 | 21例 | (0.33%) |
| 死産 | 62例 | (0.98%) |
| 流産 | 83例 | (1.31%) |
| 流産+死産* | 1例 | (0.02%) |
| 人工妊娠中絶(母体理由) | 7例 | (0.11%) |
| 人工妊娠中絶(その他) | 22例 | (0.35%) |
| 子宮摘出(病気治療のため) | 1例 | (0.02%) |
| 計 | 6,315例 | (100%) |

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

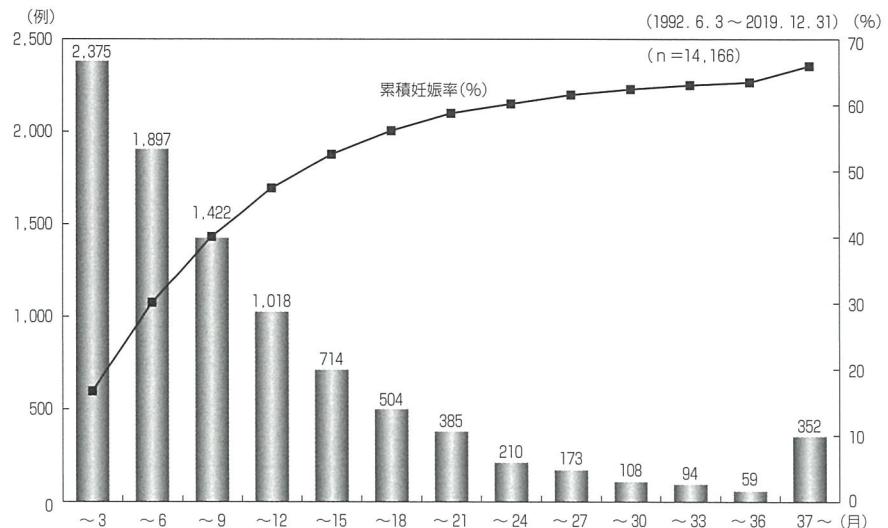
| | | | |
|----|--------|---------|--------|
| 単胎 | 5,908例 | (93.6%) | 5,908児 |
| 双胎 | 389例 | (6.1%) | 778児 |
| 品胎 | 17例 | (0.3%) | 51児 |
| 計 | 6,314例 | (100%) | 6,737児 |

3) 出生児の状態

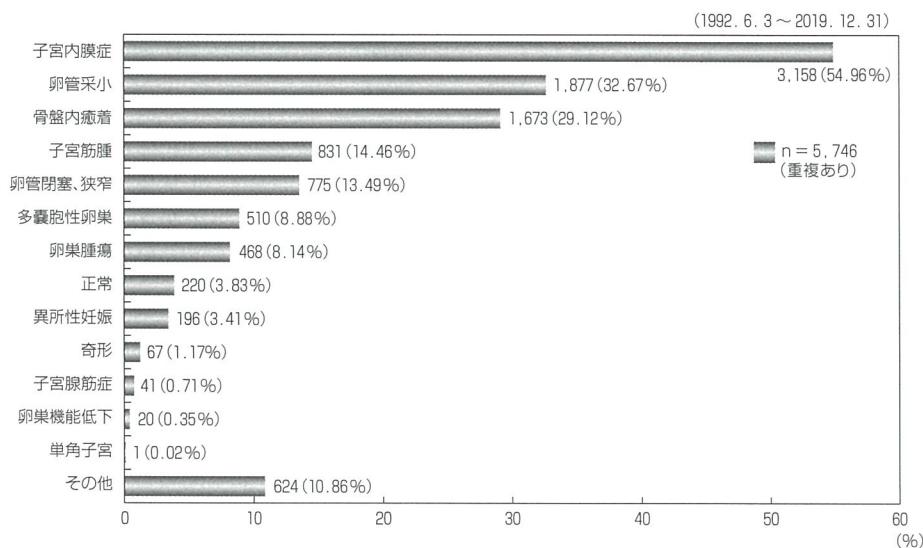
| | | |
|---------------|--------|---------|
| 正常 | 5,347児 | (79.4%) |
| 低体重児 | 943児 | (14.0%) |
| 異常(死産等含む) | 447児 | (6.6%) |
| (うち奇形を含む主な異常) | (271児) | (4.0%) |
| 計 | 6,737児 | (100%) |

(2019/12/31 セント・ルカ産婦人科)

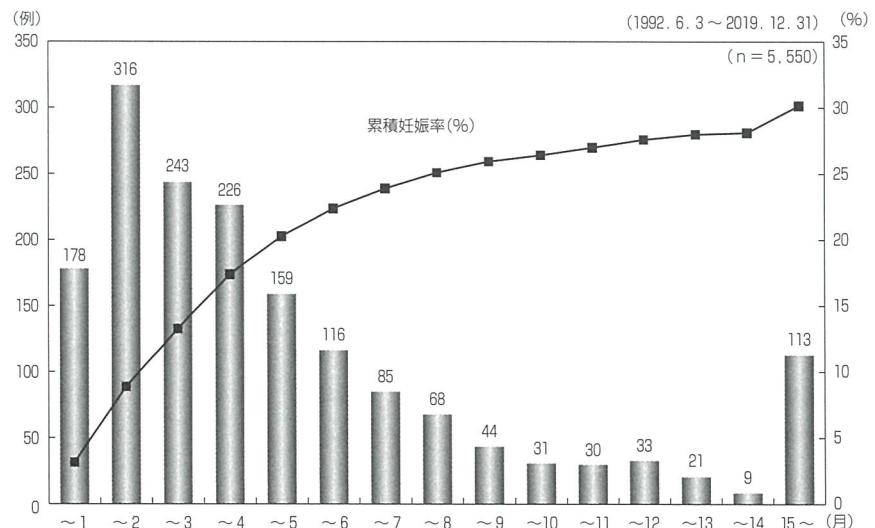
初診後妊娠までの期間



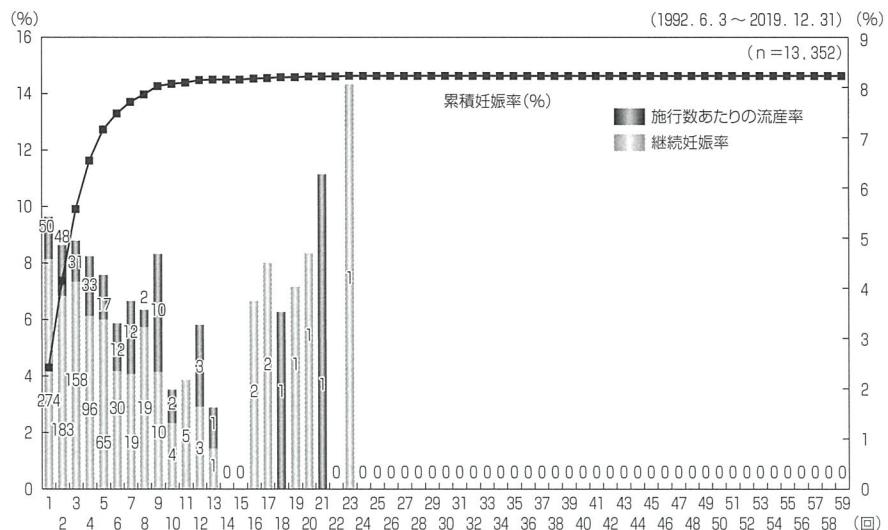
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断



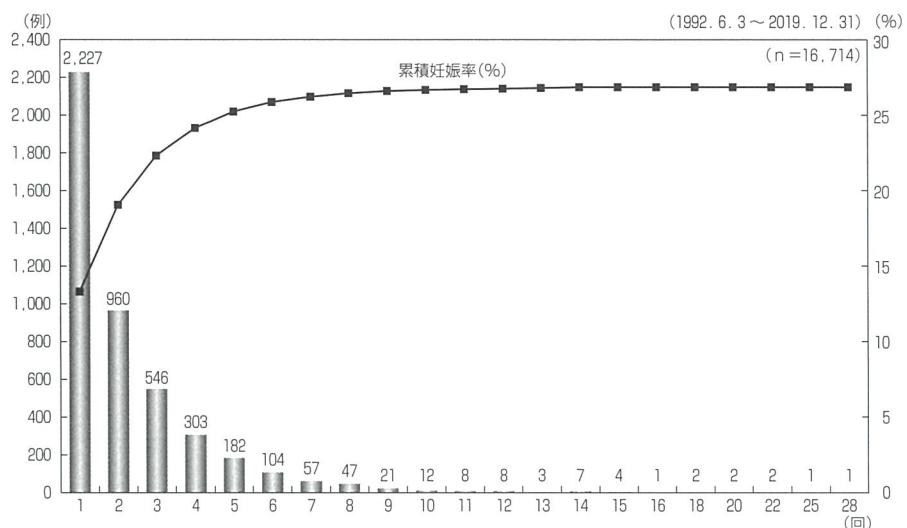
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



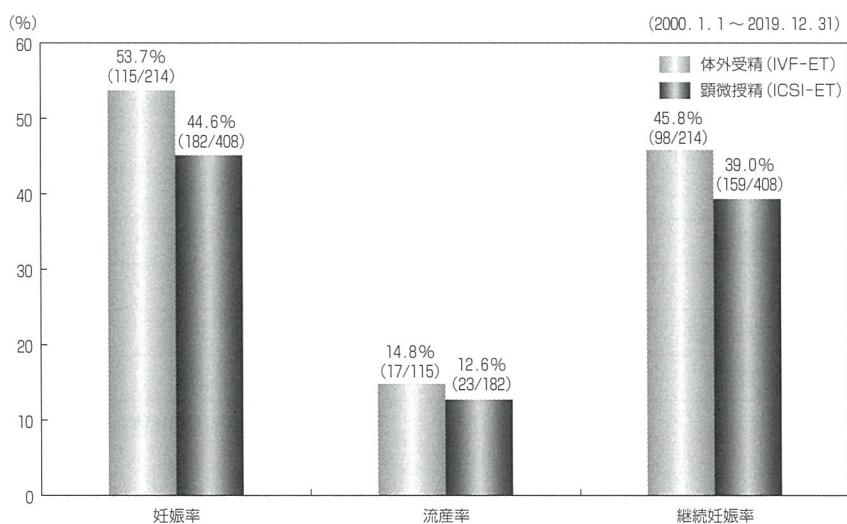
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



ART(生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



妊娠数

(1992.6.3～2019.12.31)

| | 周 期 | 1992～2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 合 計 |
|---|---------------|--------------|------------|------------|------------|--------------|
| 体外受精 胚移植 | 採 卵 | 3,574 | 26 | 10 | 14 | 3,624 |
| | 全胚凍結(OHSS*回避) | 541 | 17 | 3 | 10 | 571 |
| | 全胚凍結(その他) | 168 | 2 | 1 | 0 | 171 |
| | キャンセル | 356 | 3 | 1 | 0 | 360 |
| | 移 植 | 2,509 | 4 | 5 | 4 | 2,522 |
| | 妊 娠 | 688(27.4%) | 1(25.0%) | 2(40.0%) | 2(50.0%) | 693(27.5%) |
| | 分娩病院紹介 | 493 | 1 | 1 | 2 | 497 |
| 顕微授精 胚移植 | 採 卵 | 9,348 | 735 | 669 | 579 | 11,331 |
| | 移 植 | 5,172 | 260 | 296 | 277 | 6,005 |
| | 妊 娠 | 1,043(20.2%) | 49(18.8%) | 64(21.6%) | 43(15.5%) | 1,199(20.0%) |
| | 分娩病院紹介 | 705 | 32 | 45 | 31 | 813 |
| 凍結融解 胚移植 (ICSI後凍結含む) | 凍結融解周期 | 6,891 | 612 | 535 | 475 | 8,513 |
| | 移 植 | 6,294 | 560 | 497 | 439 | 7,790 |
| | 妊 娠 | 1,967(31.3%) | 181(32.3%) | 184(37.0%) | 169(38.5%) | 2,501(32.1%) |
| | 分娩病院紹介 | 1,210 | 113 | 120 | 123 | 1,566 |
| 配偶子/ 接合子/ 体外受精胚/ 顕微授精胚/ 凍結融解胚/ 卵管内移植 | 採 卵 | 237 | 0 | 0 | 0 | 237 |
| | 凍結融解周期 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 移 植 | 237 | 0 | 0 | 0 | 237 |
| | 妊 娠 | 51(21.5%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) | 51(21.5%) |
| | 分娩病院紹介 | 36 | 0 | 0 | 0 | 36 |
| 体外成熟培養 体外受精/ 凍結融解/ 胚移植 | 採 卵 | 8 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| | 凍結融解周期 | 188 | 0 | 0 | 2 | 190 |
| | 移 植 | 158 | 0 | 0 | 2 | 160 |
| | 妊 娠 | 53(33.5%) | 0(0%) | 0(0%) | 1(50.0%) | 54(33.8%) |
| | 分娩病院紹介 | 40 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| 小計 | 採 卵 | 13,167 | 761 | 679 | 593 | 15,200 |
| | 凍結融解周期 | 7,082 | 612 | 535 | 477 | 8,706 |
| | 移 植 | 14,370 | 824 | 798 | 722 | 16,714 |
| | 妊 娠 | 3,802(26.5%) | 231(28.0%) | 250(31.3%) | 215(29.8%) | 4,498(26.9%) |
| | 分娩病院紹介 | 2,484 | 146 | 166 | 156 | 2,952 |

| | | | | | |
|----------------|-------|-----|-----|-----|-------|
| ART** 以外の妊娠数 | 4,420 | 163 | 130 | 100 | 4,813 |
| 妊娠総数 | 8,222 | 394 | 380 | 315 | 9,311 |
| ART 以外の分娩病院紹介数 | 3,385 | 131 | 103 | 83 | 3,702 |
| 分娩病院紹介総数 | 5,869 | 277 | 269 | 239 | 6,654 |

* 卵巣過剰刺激症候群

** 生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます



診療統計

2019年一年間の成績



2019年一年間の成績

外来患者数

(2019.1.1～2019.12.31)

| | 午前診療 | 午後診療 | 夕方診療 | 合計 |
|-----|--------|-------|-------|--------|
| 1月 | 1,046 | 196 | 180 | 1,422 |
| 2月 | 1,066 | 250 | 152 | 1,468 |
| 3月 | 1,176 | 293 | 232 | 1,701 |
| 4月 | 1,152 | 199 | 242 | 1,593 |
| 5月 | 1,128 | 207 | 197 | 1,532 |
| 6月 | 1,095 | 215 | 220 | 1,530 |
| 7月 | 1,178 | 221 | 236 | 1,635 |
| 8月 | 1,066 | 189 | 194 | 1,449 |
| 9月 | 1,102 | 197 | 165 | 1,464 |
| 10月 | 1,063 | 230 | 210 | 1,503 |
| 11月 | 1,017 | 228 | 243 | 1,488 |
| 12月 | 919 | 205 | 209 | 1,333 |
| 合計 | 13,008 | 2,630 | 2,480 | 18,118 |

初診患者数

(2019.1.1～2019.12.31)

| | 午前診療 | 午後診療 | 合計 |
|-----|------|------|-----|
| 1月 | 42 | 6 | 48 |
| 2月 | 40 | 3 | 43 |
| 3月 | 47 | 5 | 52 |
| 4月 | 35 | 2 | 37 |
| 5月 | 36 | 1 | 37 |
| 6月 | 35 | 6 | 41 |
| 7月 | 47 | 9 | 56 |
| 8月 | 40 | 4 | 44 |
| 9月 | 39 | 3 | 42 |
| 10月 | 35 | 1 | 36 |
| 11月 | 39 | 5 | 44 |
| 12月 | 37 | 4 | 41 |
| 合計 | 472 | 49 | 521 |

手術・入院数

(2019.1.1～2019.12.31)

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|
|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|

手術入院

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 腹腔鏡手術 | 15 | 12 | 16 | 7 | 9 | 9 | 16 | 13 | 16 | 16 | 8 | 8 | 145 |
| 腹腔鏡下子宮筋腫核出術 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | 13 |
| 子宮筋腫核出術(開腹) | 3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 1 | 2 | 14 |
| 腹腔鏡下子宮外妊娠手術 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 6 |
| 経頸管子宮筋腫・内膜ポリープ切除術(TCR) | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 | 13 |
| 子宮内容除去術(流産のため) | 6 | 3 | 4 | 4 | 5 | 2 | 5 | 10 | 5 | 8 | 8 | 5 | 65 |
| 卵管鏡下卵管形成術 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 子宮内膜搔爬術 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 6 |
| 卵胞穿刺術 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 | 15 |
| 開腹手術(子宮全摘出術) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| その他 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 8 |
| 合 計 | 30 | 22 | 27 | 16 | 17 | 16 | 26 | 31 | 30 | 31 | 25 | 19 | 290 |

安静入院

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 卵巣過剰刺激症候群 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 0 | 7 | 0 | 2 | 0 | 21 |
| 切迫流産安静 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 7 |
| その他 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 6 |
| 合 計 | 1 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 3 | 0 | 8 | 1 | 2 | 3 | 34 |

体外受精入院

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------|
| 採卵 | 34 | 64 | 52 | 66 | 53 | 49 | 70 | 42 | 50 | 42 | 43 | 32 | 597 |
| 胚移植 | 7 | 28 | 34 | 36 | 22 | 22 | 25 | 26 | 20 | 25 | 19 | 17 | 281 |
| 凍結胚移植 | 33 | 35 | 49 | 39 | 37 | 39 | 33 | 40 | 32 | 39 | 39 | 29 | 444 |
| 合 計 | 74 | 127 | 135 | 141 | 112 | 110 | 128 | 108 | 102 | 106 | 101 | 78 | 1,322 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 入院総計 | 105 | 152 | 165 | 160 | 133 | 129 | 157 | 139 | 140 | 138 | 128 | 100 | 1,646 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|

妊娠の内訳

期間(2019.1.1～2019.12.31)

妊娠に至った主たる有効治療

| | | |
|-------------------|------|---------|
| ART(生殖補助医療)全体 | 215例 | (68.3%) |
| IVF-ET(体外受精) | 2例 | (0.6%) |
| MF-ET(顕微授精) | 43例 | (13.6%) |
| CRYO-ET(凍結胚移植) | 170例 | (54.0%) |
| ART(生殖補助医療)以外 | 100例 | (31.7%) |
| IUI(選別精子子宮内注入法) | 3例 | (0.9%) |
| hMG+hCG, Gn-RHa | 39例 | (12.4%) |
| クロミフェン | 7例 | (2.2%) |
| ヒューナーテスト, タイミング指導 | 22例 | (7.0%) |
| HSG(子宮卵管造影法)直後 | 15例 | (4.8%) |
| 腹腔鏡検査後自然妊娠 | 9例 | (2.9%) |
| その他 | 5例 | (1.6%) |
| 計 | 315例 | (100%) |

妊娠の転帰

| | | |
|----------|------|---------|
| 分娩病院へ紹介済 | 239例 | (75.9%) |
| 流産 | 70例 | (22.2%) |
| 異所性妊娠 | 6例 | (1.9%) |
| 計 | 315例 | (100%) |

※出産結果は全ての妊娠結果が判明している2018年の妊娠を対象とする

出産結果 (2018年に妊娠し分娩病院へ紹介済の264例について)

期間 (2018.1.1～2018.12.31)

1) 妊娠結果

| | | |
|-----|------|---------|
| 満期産 | 240例 | (90.9%) |
| 早 産 | 15例 | (5.7%) |
| 過期産 | 1例 | (0.4%) |
| 死 産 | 2例 | (0.7%) |
| 流 産 | 6例 | (2.3%) |
| 計 | 264例 | (100%) |

2) 多胎妊娠について

| | | | |
|----|------|---------|------|
| 単胎 | 253例 | (95.8%) | 253児 |
| 双胎 | 11例 | (4.2%) | 22児 |
| 計 | 264例 | (100%) | 275児 |

3) 出生児の状態

| | | |
|---------------|------|---------|
| 正常 | 232児 | (84.4%) |
| 低体重児 | 30児 | (10.9%) |
| 異常(死産等含む) | 13児 | (4.7%) |
| (うち奇形を含む主な異常) | (6児) | (2.2%) |
| 計 | 275児 | (100%) |

異常児の詳細 (2018年の妊娠で出生した275児のなかの6児について)

| 主な異常 6児 | 6児／275児 (2.2%) | | うち ART*児 : 5児／170児 (2.9%) ART以外児 : 1児／105児 (1.0%) | |
|-----------------|----------------|-------|--|-------|
| | ART | ART以外 | ART | ART以外 |
| 21-Trisomy モザイク | 1児 | 0児 | 甲状腺機能低下症 | 0児 |
| 心室中隔欠損症 | 1児 | 0児 | 鎖肛 | 1児 |
| 心房中隔欠損症 | 1児 | 0児 | 口唇口蓋裂 | 1児 |

* 生殖補助医療

ART(生殖補助医療)による妊娠

(2019.1.1～2019.12.31)

| | 採卵／凍結融解 周期数 | 胚移植周期数 (採卵／凍結融解あたり%) | 妊娠周期数 (移植あたり%) | 流産周期数 (妊娠あたり%) |
|--------------------------------|----------------|-------------------------|-------------------|-------------------|
| IVF-ET | 14 | 4 (28.6%) | 2 (50.0%) | 0 (0%) |
| MF-ET (男性因子以外も含む) (ICSI) | 579 | 277 (47.8%) | 43 (15.5%) | 9 (20.9%) |
| | 556 | 277 (49.8%) | 43 (15.5%) | 9 (20.9%) |
| CRYO-ET | 477 | 441 (92.5%) | 170 (38.5%) | 47 (27.6%) |
| 採卵周期合計 | 593 | 281 (47.4%) | 45 (16.0%) | 9 (20.0%) |
| 全体合計 | 1,070 | 722 (67.5%) | 215 (29.8%) | 56 (26.0%) |

ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(2018.1.1～2018.12.31)

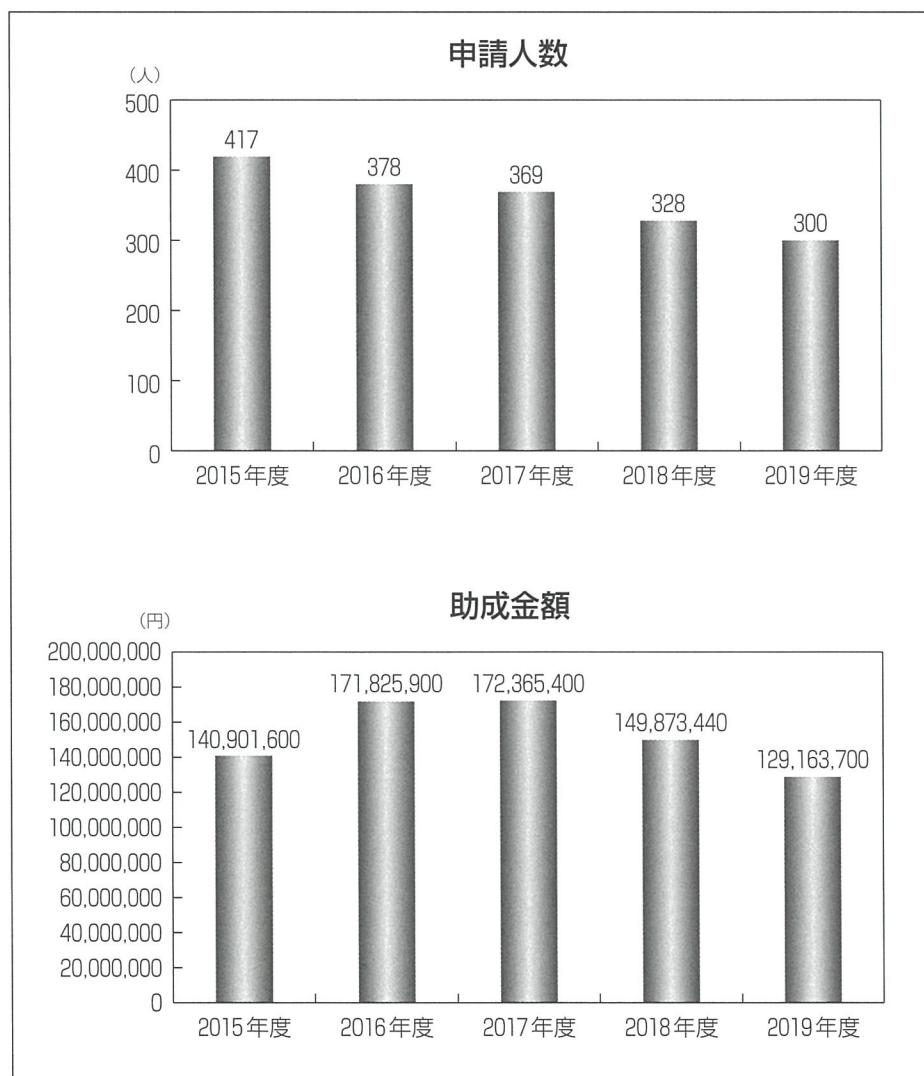
| 2018年に妊娠し、2019年12月31日までに妊娠結果が判明している164例に限る | | | | |
|--|-----------|--------------|---------------|------------|
| 妊娠結果 | 満期産 | 151例 (92.1%) | | |
| | 早産 | 9例 (5.5%) | | |
| | 過期産 | 1例 (0.6%) | | |
| | 死産 | 2例 (1.2%) | | |
| | 流産 | 1例 (0.6%) | | |
| 多胎妊娠について | 170児 | 単胎 | 158例 (96.3 %) | 158児 |
| | | 双胎 | 6例 (3.7%) | 12児 |
| 出生児の状態 | 正常 | 148児 (87.1%) | | |
| | 低体重児 | 15児 (8.8%) | | |
| | 異常(死産等含む) | 7児 (4.1%) | うち奇形を含む主な異常 | 5児 (2.9%) |

不妊治療費助成金申請内訳

2019年度

| | 申請人数(人) | 申請回数(回) | 助成金額(円) |
|-----|---------|---------|-------------|
| 大分県 | 125 | 198 | 51,541,400 |
| 大分市 | 153 | 284 | 74,629,200 |
| 他 県 | 4 | 6 | 844,200 |
| 市町村 | 18 | 23 | 2,148,900 |
| 合 計 | 300 | 511 | 129,163,700 |

過去5年分(2015年度～2019年度)のまとめ



セント・ルカ産婦人科

一年のあゆみ

セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ

(2019.1.1～2019.12.31)

| | |
|---------------------------------------|---------------|
| 学会発表 | 40題 |
| 院 長 | 7 |
| 医 局 | 7 |
| 看護部 | 10 |
| 研究室・培養室 | 15 |
| 受 付 | 1 |
| 講演・講義 | 6題 |
| 院 長 | 4 |
| 看護部 | 1 |
| 研究室・培養室 | 1 |
| 学会・講演会・研究会等参加 | 41回 |
| 研修会・講習会参加 | 26回 |
| 論文 | 3編 |
| 著書(共著) | 3編 |
| 主催講演 | 6回 |
| 第26回セント・ルカセミナー | 1 総参加人数 120名 |
| 第7回大分性教育セミナー | 1 総参加人数 119名 |
| 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座 | 4 総参加人数 244名 |
| 不妊力ウンセラー活動 | 41回 |
| 新患教室 | 8 総参加人数 465名 |
| 体外受精教室 | 12 総参加人数 646名 |
| 着床前胚異数性検査：PGT-Aについての説明会 | 6 総参加人数 159名 |
| ガーネットサークル | 4 総参加人数 13名 |
| オリーブの会(第12期) | 3 総参加人数 7名 |
| オリーブの会(第13期) | 5 総参加人数 17名 |
| 治療の終結を決断した 元患者さんのお話が聞ける会 | 2 総参加人数 19名 |
| 里親・養子縁組の説明会 ～治療を経て里親・養子縁組をされた方のお話～ | 1 総参加人数 4名 |

行事一覧

2019

| | |
|------|---|
| 1. 4 | 仕事始め会(セント・ルカ産婦人科 多目的室) |
| 1. 5 | 第117回 新患教室 参加者60名 参加〈瀬戸口、油野、関、濱、熊迫、糸永、惠藤、吉良、宮田、渡邊、松土、稗田〉 |
| 1. 8 | 第233回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| 1.12 | 遺伝カウンセリングロールプレイ研修会(GCRP2018)(熊本) 参加〈院長〉 |
| 1.13 | 大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会臨時総会(大分) 参加〈院長〉 |
| 1.13 | 平成30年度大分県医師会がん精密検診協力医療機関研修会(大分) 参加〈院長〉 |
| 1.19 | 市民公開講座 in 福岡「もっと知りたい がんと遺伝子」(福岡) 参加〈院長〉 |
| 1.19 | 九州家族性腫瘍フォーラム2019(福岡) 参加〈院長〉 |
| 1.19 | 第4回 第12期オリーブの会 参加者3名 |
| 1.20 | 第40回 日本エンドometriosis学会学術講演会(東京) 参加〈足立、越光、院長〉 発表:「不妊患者における子宮腺筋症核出術後の癒着についての検討」(院長) |
| 1.26 | 第257回 体外受精教室 参加者63名 参加〈瀬戸口、関、濱、小池、後藤香、糸永、惠藤、吉良、宮田、越光〉 |
| 1.27 | 第7回 日本 HBOC コンソーシアム学術総会(東京) 参加〈院長〉 |
| 1.28 | インターンシップ受入れ(～1月30日まで) |
| 2. 1 | 第13回 大分女性医学フォーラム(大分) 参加〈河邊〉 |
| 2. 2 | 第10回 遺伝カウンセリングアドバンストセミナー(東京) 参加〈院長〉 |
| 2. 2 | 第66回 JISART 理事会(東京) 参加〈院長〉 |
| 2. 3 | JISART 2019年度施設認定審査説明会・審査員研修(東京) 参加〈青木、城戸〉 |
| 2. 5 | 第1回 大分県産婦人科・精神科合同研修会 / 平成30年度第2回大分県産婦人科医会・大分産科婦人科学会研修会(大分) 参加〈青木、坂本、松土、稗田、河邊、院長〉 |
| 2. 6 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈院長〉 |
| 2. 8 | おおいたインフォメーションハウス株式会社 医療専門誌『大分の頼れるお医者さん2019』取材 |
| 2. 9 | 第14回 治療終結を決断した元患者さんのお話 参加者13名 |
| 2. 9 | 平成30年度日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会(東京) 参加〈河邊〉 |
| 2.12 | 第234回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| 2.16 | 第75回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者96名 講師〈越名(受付)、川村(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生〉 参加〈後藤彩、瀬戸口、関、平田、越名、橘、土谷、吉良、坂本、川村、後藤裕、稗田〉 |
| 2.18 | 第14回 PGT-A に関する小委員会(東京) 参加〈院長〉 |
| 2.23 | 第74回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名 |
| 2.23 | 日本生殖心理学会 第10回継続研修会(東京) 参加〈青木、城戸〉 |
| 2.24 | 第16回 日本生殖心理学会・学術集会(東京) 参加〈青木、城戸、手島、後藤裕、院長〉 発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について患者への聞き取り調査」(青木桜) |
| 2.25 | 藤田医科大学総合医科学研究所見学(愛知) 参加〈院長〉 |
| 2.26 | 第128回 大分県周産期研究会(大分) 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、油野、関、平田、川内、青木、濱、越名、後藤厚、小池、後藤香、長木、熊迫、大津、渡邊、戸高、北田、坂本、手島、川村、松土、越光、後藤裕、稗田、河邊〉 発表:「精子正常形態率が胚発育タイムラプス所見へ及ぼす影響」(後藤香里) 「4種のプロゲステロン腫剤を使用した患者への調査」(越光直子) |

行事一覧

| | |
|------|---|
| 3. 2 | 第258回 体外受精教室 参加者85名 参加〈後藤彩、関、越名、小池、後藤香、吉良、越光〉 |
| 3. 5 | 安全管理研修：カルテの取り扱いについて（担当：受付） |
| 3. 6 | 福岡臨床遺伝研究会（福岡） 参加〈院長〉 話題提供：「藤田医科大学でのNGS見学」（院長） |
| 3. 7 | 第28回 大分婦人科悪性腫瘍研究会（大分） 参加〈河邊、院長〉 |
| 3. 9 | 日本生殖発生医学会理事会（大阪） 参加〈院長〉 |
| 3.10 | 日本生殖発生医学会第14回学術集会（大阪） 参加〈院長〉 |
| 3.11 | 日本受精着床学会平成30年度第3回常務理事会（東京） 参加〈院長〉 |
| 3.14 | 平成30年度麻薬取扱者等説明会（大分） 参加〈北田〉 |
| 3.16 | 第5回 第12期オリーブの会 参加者2名 |
| 3.16 | 平成30年度家族計画・母体保護法指導者講習会伝達講習会（福岡） 参加〈院長〉 |
| 3.19 | 第235回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| 3.19 | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』夏号（Vol.42）取材 |
| 3.23 | 第118回 新患教室 参加者73名 参加〈後藤彩、関、青木、大津、吉良、坂本、松土〉 |
| 3.24 | 第15回 日本A-PART学術講演会2019（東京） 参加〈城戸、熊迫、越光、院長〉 座長：シンポジウム3「着床前遺伝子スクリーニング：今後の展望」（院長） 講演：シンポジウム3「胚盤胞バイオプシーにおけるtechnical tips」（城戸京子） 「日本A-PART臨床研究報告②がん臨床研究報告」（院長） 発表：「新しく開発されたヒト卵管内液組成類似培養液の臨床的有用性について －前方視的無作為比較試験－」（熊迫陽子） 「4種のプロゲステロン剤を使用した患者への調査」（越光直子） |
| 3.30 | 第259回 体外受精教室 参加者51名 参加〈瀬戸口、関、青木、小池、後藤香、吉良、戸高〉 |
| 3.30 | セント・ルカ産婦人科 & メディテック・ルカ合同お花見（大分・平和市民公園） |
| 4. 1 | 新職員 伊東裕子（医局）、古川雄一（医局）、甲斐忍（看護部）、大津仁美（看護部）、芳山愛実（看護部）、 新野亜莉紗（看護部）、小林あやね（研究室・培養室） |
| 4. 1 | 日本生殖心理学会 生殖医療相談士認定（看護部：坂本順子） |
| 4. 6 | 第15回 九州産婦人科内視鏡手術研究会（福岡） 参加〈松土、越光、古川、伊東、院長〉 発表：「異所性妊娠例の検討」（院長） |
| 4. 7 | 第76回 九州・沖縄生殖医学会（福岡） 参加〈熊迫、大津英、手島、松土、後藤裕、古川、伊東、院長〉 座長：一般演題 口演 第VII群「凍結・染色体診断」（院長） 発表：「シングルステップメディウムを用いたヒト胚のアミノ酸代謝の検討」（熊迫陽子） 「凍結胚融解後移植不可能であった胚の背景と染色体数的異常率」（大津英子） 「不妊患者における腹腔鏡検査後の心情調査」（手島しおり） 「体外受精へのステップアップに関する検討～体外受精教室前後の比較～」（松土留美） |
| 4. 9 | 第236回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| 4.11 | 第71回 日本産科婦人科学会学術講演会（愛知） 参加〈甲斐由、伊東、院長〉 発表：「両側卵管切除後に体外受精胚移植を施行し、卵巣妊娠となった一例」（甲斐由布子） 「油性子宫卵管造影剤の腹腔内残留について」（院長） |
| 4.13 | 第119回 新患教室 参加者55名 参加〈関、平田、川内、越名、小林、城戸、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、吉良、渡邊、松土、古川〉 |
| 4.20 | 第260回 体外受精教室 参加者61名 参加〈関、越名、小林、小池、大津英、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、手島〉 |

行事一覧

| | |
|------|--|
| 4.23 | 第49回 大分市医師会産婦人科－内分泌・不妊・代謝－懇話会(大分) 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、油野、関、平田、川内、青木、越名、後藤厚、小林、小池、長木、熊迫、大津英、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、吉良、宮田、渡邊、北田、亀井、坂本、手島、川村、松土、越光、後藤裕、甲斐由、古川、伊東、院長〉 「卵子凍結後のがんサバイバーと生殖医との関わり」(アイブイエフ詠田クリニック 院長 詠田由美先生) |
| 4.27 | 第6回 第12期オリーブの会 参加者2名 |
| 5. 7 | 心理専門相談室(非常勤) 上野桂子(公認心理師)、雲井小夜子(公認心理師) |
| 5. 7 | 2019年度大分大学医学部医学科第6年次生「産科婦人科」学外臨床実習(～5月18日まで) |
| 5.11 | 第76回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者57名 講師〈越名(受付)、川村(看護部)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生〉 参加〈雲井、後藤彩、越名、小林、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、吉良、坂本、川村、後藤裕、古川〉 |
| 5.14 | 第237回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| 5.18 | 第75回 ガーネットサークル OG1名、参加者3名 |
| 5.18 | メルクセローノ全国講演会「Up-To-Date on ART in 2019」(東京) 参加(院長) |
| 5.18 | 第76回 九州連合産科婦人科学会・第70回九州ブロック産婦人科医会(福岡) 参加(伊東) |
| 5.21 | マネジメントレビュー |
| 5.23 | 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加〈後藤彩、瀬戸口、関、小林、新野、芳山、大津仁、甲斐忍〉 講義:「不妊症講座」(院長) |
| 5.25 | 第60回 日本卵子学会学術集会(広島) 参加(熊迫、大津英、院長) 座長:一般演題「受精・発生1」(大津英子) 発表:「シングルステップメディウムを用いたヒト胚のアミノ酸代謝の検討」(熊迫陽子) 「新しく開発されたヒト卵管内液組成類似培養液の臨床的有用性について －前方視的無作為比較試験－」(大津英子) |
| 5.25 | 日本卵子学会理事会(広島) 参加(院長) |
| 5.26 | 日本卵子学会第19回培地開発委員会(広島) 参加(院長) |
| 5.28 | PGT-A 次期計画に関する会議(東京) 参加(院長) |
| 5.31 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加(伊東、院長) |
| 6. 1 | 第261回 体外受精教室 参加者65名 参加〈雲井、上野、関、川内、小林、小池、後藤香、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、手島、古川〉 |
| 6. 4 | 院内全体研修:避難訓練(担当:研究室・培養室) |
| 6. 4 | 院内全体研修:接遇について(担当:受付) |
| 6. 4 | 第29回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員長:野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) 倫理委員:上野徳美先生(大分大学 名誉教授)、緒方俊一先生(わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 院長)、河野浩先生(河野・千野法律事務所 弁護士)、後藤裕子(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園 園長) (五十音順) オブザーバー:伊東裕子(セント・ルカ産婦人科 医師)、古川雄一(セント・ルカ産婦人科 医師) |
| 6. 7 | HBOC Scientific Exchange Meeting 2019 in Fukuoka(福岡) 参加(院長) |
| 6. 8 | 第120回 新患教室 参加者53名 参加〈雲井、関、平田、川内、小林、長木、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、松土、古川、伊東〉 |
| 6. 8 | 平成31年度(令和元年度)公益社団法人大分県栄養士会第8回定時総会(大分) 参加(油野) |

行事一覧

| | |
|-------|---|
| | 第26回 セント・ルカセミナー(ホテル日航大分 オアシスター) |
| | 講演1：「着床前遺伝子スクリーニング(PGT-A)－出生前診断におけるポジショニングー」 吉村恭典先生〈内閣官房参与／慶應義塾大学 名誉教授〉 |
| | 座長：宮川勇生先生〈大分大学 名誉教授〉 |
| | 講演2：「ARTを支える法律・ガイドラインについて－諸外国とわが国の取り組みー」 石原理先生〈埼玉医科大学産科婦人科学教室 教授〉 |
| | 座長：榎原久司先生〈大分大学医学部産科婦人科 教授〉 |
| | 講演3：「PGT-A パイロットスタディでの経験と今後の方向性」 桑原章先生〈徳島大学大学院医歯薬学研究部産科婦人科学分野 准教授〉 |
| | 座長：倉橋浩樹先生〈藤田医科大学総合医科学研究所分子遺伝学研究部門 教授〉 |
| 6. 9 | ランチョンセミナー1：「ヒト卵管内液組成に基づいた胚培養液「HiGROW OViT」の開発と展望」 八尾竜馬先生〈扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター〉 |
| | 座長：宇津宮隆史〈セント・ルカ産婦人科 院長〉 |
| | ランチョンセミナー2：「PGT 解析技術の現状と問題点」 加藤武馬先生〈藤田医科大学総合医科学研究所分子遺伝学研究部門 助教〉 |
| | 座長：河野康志先生〈大分大学医学部産科婦人科 准教授〉 |
| | 講演4：「着床前診断について話し合う～遺伝カウンセリングを行う立場から」 田村智英子先生〈FMC 東京クリニック 医療情報・遺伝カウンセリング部 部長〉 |
| | 座長：斎藤仲道先生〈社会医療法人天神会新古賀クリニック 婦人科顧問〉 |
| | 講演5：「遺伝子治療の倫理学－耳の聞こえない子どもがほしいと言われたら？－」 土持貴志先生〈九州大学大学院人文科学府人文基礎専攻倫理学専修博士後期課程〉 |
| | 座長：斎藤仲道先生〈社会医療法人天神会新古賀クリニック 婦人科顧問〉 |
| 6. 10 | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.43)取材 |
| 6. 11 | 第238回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| 6. 15 | オリジオ・ジャパン主催特別セミナー「日本における PGT-A の現状と未来」(福岡) 参加〈城戸、大津英〉 |
| | 第7回 大分性教育セミナー(トキハ会館) 参加(後藤彩、瀬戸口、安部、矢野、関、平田、川内、青木、越名、後藤厚、小林、小池、長木、熊迫、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、吉良、宮田、戸高、坂本、足立、松元、手島、松土、越光、後藤裕、甲斐由、古川、院長) |
| 6. 16 | 講演1：「大切なあなたへ伝えたいこと ～もっと自分(命)を大切に～」 安永智美先生〈福岡県警察本部生活安全部少年課少年健全育成室 課長補佐〉 |
| | 座長：宮川勇生先生〈大分大学 名誉教授〉 |
| | 講演2：「子どもたちの生と性を豊かに育む～性教育における大人の課題と子どもへ伝えたい事～」 中井良次先生〈児童養護施設迦陵園 ケアワーカー〉 |
| | 座長：谷口久枝先生〈ひなた女性クリニック 院長〉 |
| 6. 19 | 令和元年度第2回 大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会研修会並びに第244回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加〈平田、熊迫、戸高、足立、古川、伊東、院長〉 |
| | 35th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (Vienna) 参加〈城戸、坂本、事務長、院長〉 |
| 6. 23 | 発表：「Chromosomal abnormalities occurrence in human blastocysts」(城戸京子) 「Live birth following embryo transfer using new media composed of human oviductal amino acid fluid for IVF-ET: A randomized trial」(院長) |
| 6. 28 | 日本受精着床学会2019年度第1回常務理事会(東京) 参加〈院長〉 |
| 6. 29 | 第262回 体外受精教室 参加者51名 参加〈青木、小林、小池、後藤香、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、北田、古川〉 |
| 7. 1 | 2019年度大分大学医学部医学科第6年次生「産科婦人科」学外臨床実習(～7月13日まで) |
| 7. 5 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈伊東、院長〉 |
| 7. 5 | 第16回 大分県母性衛生学会学術集会第1回実行委員会(大分) 参加〈川村、後藤裕〉 |
| 7. 6 | JISART 非配偶者間体外受精実施に向けての説明会(東京) 参加〈院長〉 |
| 7. 6 | 第67回 JISART 理事会(東京) 参加〈院長〉 |
| 7. 6 | 第12回 JISART 医療事務教育セミナー(東京) 参加〈川内〉 |

行事一覧

| | |
|------|---|
| 7. 6 | 第12回 JISART ラボ教育セミナー(東京) 参加<小池> |
| 7. 6 | 第16回 JISART 看護教育セミナー(東京) 参加<手島> |
| 7. 7 | 第17回 JISART シンポジウムおよび総会(東京) 参加<川内、小池、手島、院長> |
| 7. 9 | 第239回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| 7.13 | 第121回 新患教室 参加者73名 参加<関、平田、川内、青木、小林、熊迫、新野、芳山、大津仁、甲斐忍、吉良、戸高、古川> |
| 7.14 | 第11回 遺伝カウンセリングアドバンストセミナー(岡山) 参加<院長> |
| 7.16 | AMED 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 苛原班令和元年度班会議(東京) 参加<院長> |
| 7.19 | PGT-A(着床前胚染色体異数性検査) 臨床研究の実施に関する説明会(東京) 参加<院長> |
| 7.20 | 第263回体外受精教室 参加者39名 参加<雲井、関、越名、小林、小池、後藤香、芳山、大津仁、甲斐忍、戸高、古川> |
| 7.20 | 第1回 着床前胚異数性検査: PGT-Aについての説明会 参加者37名 参加<雲井、上野、後藤彩、安部、関、青木、越名、小林、城戸、後藤香、芳山、大津仁、甲斐忍、亀井、足立、川村、松土、越光、後藤裕、古川、伊東> |
| 7.21 | 令和元年度大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会総会(大分) 参加<甲斐由、古川、伊東、院長> 発表:「ごく初期に診断し腹腔鏡手術で根治した腹膜妊娠の一例」(古川雄一) |
| 7.21 | 大分県栄養士会主催令和元年度生涯教育研修会(大分) 参加<油野> |
| 7.26 | 大分東明高等学校衛生看護科5年一貫コース異学年交流出張講義(大分) 参加<手島> 講義:「不妊症看護認定看護師として伝えたいこと」(手島しおり) |
| 7.27 | 第42回 日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会(大阪) 参加<院長> |
| 7.27 | 第1回 第13期オリーブの会 参加者6名 |
| 7.30 | 院内感染研修: 手洗いについて(担当: 看護部) |
| 7.31 | 第2回 JAPCO 世話人会(東京) 参加<院長> |
| 8. 1 | 第37回 日本受精着床学会総会・学術講演会(東京) 参加<熊迫、大津英、手島、松土、院長> 座長:一般口演16「培養液」(院長) 講演:スponサーードシンポジウム「大分県における助成制度導入の経緯と現状」(院長) 発表:「培養液別にみたヒト胚の発育とアミノ酸代謝の比較検討」(熊迫陽子) 「凍結胚融解後移植不可能であった胚の背景と染色体数的異常率」(大津英子) 「不妊患者における腹腔鏡検査後の心情調査」(手島しおり) 「体外受精へのステップアップに関する検討 ～体外受精教室前後のアンケートを比較～」(松土留美) |
| 8. 1 | 日本受精着床学会 2019年度理事会(東京) 参加<院長> |
| 8. 2 | 日本受精着床学会 2019年度評議員会(東京) 参加<院長> |
| 8. 2 | 第2回 PGT-A(着床前胚染色体異数性検査) 臨床研究の実施に関する説明会(東京) 参加<熊迫、大津英、手島、松土> |
| 8. 3 | 第43回 日本遺伝カウンセリング学会学術集会・第26回日本遺伝子診療学会 合同学術集会(北海道) 参加<院長> 発表:「当院の PGT-A の経験」(院長) |
| 8. 5 | 日本卵子学会および日本生殖医学会 生殖補助医療管理胚培養士認定(後藤香里) |
| 8.10 | 第122回 新患教室 参加者41名 参加<雲井、関、川内、青木、小林、大津英、芳山、大津仁、甲斐忍、網中、松土> |
| 8.13 | AMED 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 苛原班令和元年度班会議(徳島) 参加<院長> |
| 8.17 | 第264回 体外受精教室 参加者49名 参加<雲井、関、川内、小林、小池、後藤香、長木、芳山、甲斐忍、松元、古川> |
| 8.17 | 第2回 着床前胚異数性検査: PGT-Aについての説明会 参加者26名 参加<雲井、瀬戸口、川内、小池、後藤香、長木、芳山、甲斐忍、北田、亀井、松元、古川> |

行事一覧

| | |
|-------|--|
| 8.24 | 第2回 第13期オリーブの会 参加者3名 |
| 8.24 | 第76回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名 |
| 8.24 | 第26回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加〈城戸、大津英、院長〉 |
| 8.25 | 日本生殖医学会2019年度第1回生殖医療従事者講習会(大阪) 参加〈甲斐由〉 |
| 8.27 | 院内全体研修：食べ物の中のエネルギーについて(担当：厨房) |
| 8.30 | がん・生殖医療フォーラム大分 世話人会(セント・ルカ産婦人科) |
| | 第77回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者53名 |
| 8.31 | 講師〈越名(受付)、後藤裕(看護部)、上野(公認心理師)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生〉 参加〈雲井、上野、瀬戸口、関、越名、小林、芳山、甲斐忍、亀井、坂本、川村、後藤裕、古川〉 |
| 9. 6 | 第29回 遺伝医学セミナー(千葉) 参加〈院長〉 |
| | 第18回 生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加〈小池、後藤香、院長〉 |
| 9. 8 | 発表：「抗がん剤シクロフォスファミドがマウス血漿中オキシトシンに与える影響」(小池恵) 「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における Epidermal Growth Factor Receptor を介した細胞機能調節」(後藤香里) 【学術奨励賞受賞】 |
| 9. 8 | 大分県栄養士会主催令和元年度生涯教育研修会(大分) 参加〈油野〉 |
| 9.10 | 第240回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院 |
| | 第59回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(京都) 参加〈越光、後藤裕、古川、伊東、院長〉 |
| 9.12 | 発表：「ごく初期に診断し腹腔鏡手術で根治した腹膜妊娠の一例」(古川雄一) 「両側卵管切除後に体外受精胚移植を施行し卵巣妊娠となった一例」(伊東裕子) 「異所性妊娠例の検討」(院長) |
| 9.12 | 第14回 技術認定審査コンセンサスミーティング(京都) 参加〈院長〉 |
| 9.14 | 第68回 JISART 理事会(北海道) 参加〈院長〉 |
| 9.15 | 第17回 日本生殖看護学会学術集会(東京) 参加〈手島〉 |
| 9.18 | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』冬号(Vol.44)取材 |
| 9.21 | 第3回 第13期オリーブの会 参加者3名 |
| 9.28 | 第265回 体外受精教室 参加者61名 参加〈雲井、関、青木、小林、長木、新野、芳山、大津仁、宮田、亀井、越光、古川〉 |
| 9.28 | 第3回 着床前胚異数性検査：PGT-Aについての説明会 参加者37名 参加〈雲井、長木、網中、宮田、手島、伊東〉 |
| 10. 1 | 院内全体研修：心肺蘇生法(担当：看護部) |
| | 第50回 大分市医師会産婦人科－内分泌・不妊・代謝－懇話会(大分) 参加〈雲井、後藤彩、瀬戸口、安部、油野、関、平田、川内、青木、越名、小林、神田、城戸、後藤香、熊迫、大津英、芳山、大津仁、甲斐忍、網中、戸高、北田、坂本、松土、越光、後藤裕、甲斐由、古川、伊東、院長〉 「私の腹腔鏡手術30年～安価で、早くて、簡単で、安全な手術を目指して～」 (福岡山王病院 名誉病院長 中村元一先生) |
| 10. 4 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈伊東、院長〉 |
| 10. 5 | 第123回 新患教室 参加者73名 参加〈雲井、関、川内、小林、熊迫、大津仁、網中、松土、古川〉 |
| 10.11 | 第10回 大分産婦人科手術研究会(大分) 参加〈古川〉 |
| | American Society for Reproductive Medicine Scientific Congress & Expo 2019 (Philadelphia) 参加〈後藤香、戸高、事務長、院長〉 |
| 10.14 | 発表：「The changing of cell modulation via epidermal growth factor receptor in human decidual stromal cells」(後藤香里) 「The efficacy of the new embryo culture medium which designed from the components of human tubal fluid; prospective randomized trial」(院長) |

行事一覧

| | |
|-------|---|
| 10.19 | 第266回 体外受精教室 参加者55名 参加<関、平田、小林、小池、長木、芳山、大津仁、甲斐忍、亀井、古川> |
| 10.19 | 第4回 着床前胚異数性検査:PGT-Aについての説明会 参加者17名 参加<雲井、平田、城戸、坂本、古川> |
| 10.19 | 第4回 第13期オリーブの会 参加者3名 |
| 10.26 | 第15回 治療の終結を決断した元患者さんのお話が聞ける会 参加者6名 |
| 10.27 | 出生前から小児期にわたるゲノム医療フォーラム幹事会(福岡) 参加<院長> |
| 10.27 | 出生前から小児期にわたるゲノム医療フォーラム(福岡) 参加<伊東、院長> |
| 10.27 | JISART 施設認定審査 オブザーバー<城戸> |
| 10.29 | マネジメントレビュー |
| 10.30 | 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習(大分) 参加<越光、後藤裕> |
| 10.31 | 第16回 PGT-Aに関する小委員会(東京) 参加<院長> |
| 11. 1 | 新職員 魚住真由美(情報処理室) |
| 11. 2 | 第124回 新患教室 参加者37名 参加<雲井、魚住、平田、小林、城戸、芳山、大津仁、甲斐忍、網中、戸高、松土、古川> |
| 11. 5 | 安全管理研修:嘔吐物と血液の処理方法(担当:看護部) |
| | 第64回 日本生殖医学会学術講演会・総会(兵庫) 参加<城戸、後藤香、手島、松土、甲斐由、古川、伊東、院長> 発表:「培養上清中に含まれる遊離DNAを用いた PGT-A の試み -栄養外胚葉の採取部位との比較-」(城戸京子) 「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における妊娠維持に向けた細胞機能調節」(後藤香里) 「不妊患者における腹腔鏡検査前後の心情調査」(手島しおり) 「体外受精へのステップアップに関する検討 ～体外受精教室受講前後の質問紙を比較～」(松土留美) 「両側卵管切除後に体外受精胚移植を施行し、卵巣妊娠となつた一例」(甲斐由布子) 「当院の治療で妊娠成立し分娩に至つた症例についての検討」(古川雄一) |
| 11. 7 | 日本人類遺伝学会第64回大会(長崎) 参加<伊東、院長> 発表:「当院における PGT-A の有用性の検討」(伊東裕子) |
| 11.10 | 第16回 大分県母性衛生学会役員会(大分) 参加<川村、院長> |
| | 第16回 大分県母性衛生学会総会・学術集会(大分) 参加<雲井、青木、芳山、大津仁、甲斐忍、網中、宮田、北田、亀井、坂本、松元、川村、松土、越光、後藤裕、甲斐由、古川、伊東、院長> 発表:「体外受精へのステップアップに関する検討 ～体外受精教室前後の質問紙調査を比較～」(松土留美) |
| 11.12 | 院内全体研修:避難訓練(担当:受付) |
| 11.12 | 第7回 里親・養子縁組の説明会～不妊治療を経て里親・養子縁組をされた方のお話～ 参加者4名 |
| 11.16 | 第267回 体外受精教室 参加者30名 参加<魚住、関、越名、小林、小池、長木、芳山、大津仁、甲斐忍、宮田、古川> |
| 11.16 | 第5回 着床前胚異数性検査:PGT-Aについての説明会 参加者17名 参加<魚住、小池、長木、古川> |
| 11.16 | 第77回 ガーネットサークル OG1名、参加者2名 |
| 11.17 | 第5回 西日本生殖看護グループ勉強会(福岡) 参加<青木、手島> |
| | 第50回 大分市医師会医学会(大分) 参加<雲井、魚住、瀬戸口、安部、矢野、関、平田、川内、青木、後藤厚、小池、長木、熊迫、大津英、芳山、大津仁、甲斐忍、網中、宮田、北田、亀井、坂本、足立、松元、手島、川村、松土、越光、古川、伊東、院長> 発表:「がん患者の妊娠性温存治療に関して: 日本 A-PART 臨床研究成果と大分における現状報告」(小池恵) 「不妊患者における腹腔鏡検査前後の心情調査」(手島しおり) |
| 11.24 | JISART 施設認定審査 審査員<越光> |

行事一覧

| | |
|-------|--|
| 11.24 | JISART 施設認定審査 オブザーバー〈青木〉 |
| 11.26 | 院内感染研修：妊娠とインフルエンザワクチン(担当：看護部) |
| 11.26 | 令和元年度第3回大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会研修会(大分) 参加〈院長〉 |
| | 第78回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者38名 講師〈青木(受付)、坂本(看護部)、上野(公認心理師)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生〉 参加〈雲井、上野、魚住、後藤彩、関、青木、小林、芳山、大津仁、甲斐忍、坂本、川村、後藤裕〉 |
| 11.30 | 大分県栄養士会主催令和元年度生涯教育研修会(大分) 参加〈油野〉 |
| 12. 3 | 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習(大分) 参加〈北田〉 |
| 12. 6 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈伊東、院長〉 |
| 12. 7 | 忘年会 |
| | 第30回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員長：上野徳美先生(大分大学 名誉教授) 倫理委員：緒方俊一先生(わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 院長)、河野浩先生(河野・千野法律事務所 弁護士)、後藤裕子(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園 園長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順) オブザーバー：伊東裕子(セント・ルカ産婦人科 医師)、古川雄一(セント・ルカ産婦人科 医師) |
| 12.14 | 第268回 体外受精教室 参加者36名 参加〈関、川内、小林、小池、長木、芳山、甲斐忍、亀井、古川〉 |
| 12.14 | 第6回 着床前胚異数性検査：PGT-Aについての説明会 参加者25名 参加〈小池、長木、古川〉 |
| 12.17 | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.45)取材 |
| 12.20 | 第5回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会(東京) 参加〈伊東、院長〉 |
| 12.21 | 遺伝カウンセリング・ロールプレイ研修会(東京) 参加〈伊東、院長〉 |
| 12.21 | 第5回 第13期オリーブの会 参加者2名 |
| 12.23 | クリスマス会 |

著書(共著)一覧

- 「不妊治療(含む生殖補助医療)で生まれた子どもに病気は多くなりませんか?」(院長)
『今すぐ知りたい! 不妊治療Q & A -基礎理論から Decision Making に必要なエビデンスまで-』(医学書院)
- 「胚培養液の進歩」(院長)
『臨床婦人科産科』第73巻第3号(医学書院)
- 「着床前診断後のフォローアップ」(院長)
『網羅的手法による着床前診断のすべてー最新技術から遺伝カウンセリング、フォローアップまでー』
(診断と治療社)
- 「子宮卵管造影法にあたっての注意」および「異所性妊娠への対処」(院長)
『不妊症・不育症診療 その伝承とエビデンス』(中外医学社)

論文一覧

- 「ヒト胚の動的変化時間と染色体数的異常の関係」(大津英子)
日本受精着床学会雑誌 36(1): 103-107, 2019
- 「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における Epidermal Growth Factor Receptor を介した細胞機能調節」(後藤香里)
日本生殖内分泌学会雑誌 24: 12-17, 2019 【平成30年度学術奨励賞論文】
- 「ヒト胚盤胞における内細胞塊と栄養外胚葉のモザイク率に関する検討」(城戸京子)
日本受精着床学会雑誌 36(1): 98-102, 2019

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

1993年から、セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、国内外から著名な先生方を講師にお招きし、開催している。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演や胚培養士の話題、公認心理師やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡り、医師だけでなく、生殖補助医療に携わる全てのスタッフにとって興味深いプログラムになるよう工夫している。講師との距離が非常に近いため、質問もしやすく、質疑応答の時間や総合討論の時間など、毎回熱いディスカッションが行われる。休憩時間にも熱心に質問する姿があちこちで見られ、非常に有意義なセミナーである。

セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院スタッフで行っている。

がん・生殖医療フォーラム大分

開催頻度：不定期

がん治療前の卵子・精子・受精卵の保存（妊娠性温存）はまだ十分には周知されていない。大分県内の全てのがん患者が、「治療後に赤ちゃんを望める」という希望を持ちながらがん治療を受けられるようにするために、大分県内の広範囲にわたるがん治療専門医と連携をとり、フォーラムを行っている。

このフォーラムの発足（2018年1月）の前には2014年9月に「おおいた乳がん生殖医療ネットワーク」を設立した経緯がある。

性教育セミナー

（みんなで学ぼう！からだと心の守り方）

開催頻度：1回／1年

不妊症患者の初診時の年齢の上昇に伴い、不妊知識調査を行ったところ、患者が「性」に対し、「避妊」について学ぶ機会はあっても、「不妊」や「生殖年齢」についてなど、大切な情報が不足していることが分かった。また、昨今の若者を取り巻く社会環境の変化に伴い、「性」に関する社会の状況、個々の考え方や概念など間違った性知識や危うい性行動などが広がっている。そこで、2013年より、当院の活動の一つとして、児童養護施設別府平和園の子どもたちに対する性教育に加え、大分県内の一般の方や教職員の方々に対しての性教育セミナーを開催している。

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

2019年4回開催 参加のべ人数244名

受診中の患者以外にも広く不妊治療を知つもらう目的で、3ヵ月に1回（年4回）外部の会場で開催している。

院長が詳しく説明した後、泌尿器科（協力病院）の医師による男性不妊の治療についての話、公認心理師による心のお話、看護師による診療やサポート体制、受付スタッフによる助成金等の話をしている。

また、OG（当院で治療後赤ちゃんを授かり出産した方）の話もあり、OG自身の治療歴や、治療中の悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者の立場からの話をしてもらえるため、毎回好評である。

新患教室

2019年8回開催 参加のべ人数465名

当院の多目的室にて、初診時の検査から体外受精までの一連の流れを、院長が2～3時間にわたって詳しく説明した後、看護師から診療やサポート体制についての説明を行っている。また、培養室、受付、公認心理師からの話も行っている。早い時期に夫婦で参加するため、夫婦二人で取り組む意識が強くなり、その後の治療に対する理解にも役立っている。

体外受精教室

2019年12回開催 参加のべ人数646名

初めて体外受精を受ける患者向けに、治療の過程やスケジュール、体外受精前後の体の変化など、院長が3～4時間にわたってわかりやすく説明し、その後、看護師、培養室、受付、公認心理師から説明を行っている。

「受精は神秘的なもので、それに関わる体外受精はとても繊細な技術で病院側の誠意と努力をとても強く感じました」「不安に思っていたことが軽減され、不安なく体外受精に進むことができそうです」「最後の先生の夫婦仲良くが原点という言葉には胸をうたれました」など、患者からの率直な感想も聞かれる。

教室はご夫婦での参加としているため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療のステップアップにも役立っている。

着床前胚異数性検査： PGT-Aについての説明会

2019年6回開催 参加のべ人数159名

ガーネットサークル

2019年4回開催 参加のべ人数13名

当院で治療後、出産へと至った方にお願いして、現在治療中の患者との交流の場を設けている。その都度テーマを変え、対象を絞り、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるように心掛けている。

参加者より、「治療に前向きになれた」との声も聞かれ、経験者の話を聞くことにより、患者の不安を取り除き、悩んでいるのは自分ひとりではないと再認識できる貴重な会となっている。

オリーブの会(第1～13期)

第12期：2019年3回開催 参加総数 7名

第13期：2019年5回開催 参加総数17名

40歳以上の患者の孤独感や不安を軽減させるため、また治療終結への思いを共有できる時間と場を提供することを目的として開催している。

同じ年代の同じメンバーに、看護師と公認心理師を交え、治療のことや日頃感じていることなど、お茶を飲みながら、リラックスした自由な話し合いの場となっている。

治療の終結を決断した 元患者さんのお話が聞ける会

開催頻度：1回／1年

不妊治療の終結を決断し、ご夫婦だけの生活を選択された方に、現在治療中の患者に対して、治療当時の思いや、治療終結に至るまでの決断の経緯、現在の心境などのお話ををしていただいている。

ご夫婦で参加される方もおり、質問や意見交換も活発に行われる。治療中の患者にとって今後の治療や、これから二人の生活を考えることができる貴重な時間となっている。

里親・養子縁組の説明会

～不妊治療を経て里親・養子縁組された方のお話～

開催頻度：2回／1年（予約制）

治療と同時進行で、里親や養子縁組について知りたい患者向けに、情報提供の場を設けている。

児童相談所の担当者を当院に招き、里親・養子縁組制度や条件などの説明をしていただいている。個別での質問なども受けられる。

開催時期によっては、不妊治療を経て里親・養子縁組をされた方を招き、体験談を聞くことがある。

ウェイトサークル

開催頻度：不定期

肥満はホルモンバランスに影響を及ぼしたり、妊娠後や出産時にもリスクを伴う恐れがあると言われているため、BMI25以上の方を対象に、体重指導を行っている。

新患オリエンテーション

初診時診察終了後に、生殖医療相談士や不妊治療に対する教育を受けたスタッフが、写真や図を使い、患者への病状説明や、今後の治療の進み方などの説明・相談を行っている。患者の質問や不安に対して個別に対応も行っている。

心理専門相談室

予約制

生殖心理カウンセラーの資格を持つ公認心理師が、治療中の気分の落ち込み、夫婦関係、日常生活のストレス、また今後の治療への迷いなどのカウンセリングを行っている。一緒に考え、少しでも安心して治療を受けられるようなサポートを心掛けている。

院長相談

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

治療内容・治療計画・治療終結に向けての相談など、治療をする上で迷ったり悩んだりする時、普段の診療では聞きにくいことを、他の患者を気にすることなくゆっくりと相談することができる。

遺伝外来（院長）

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

遺伝、遺伝子が関係する病気や染色体異常に關して不安がある方に対し、臨床遺伝専門医である院長が遺伝医学の最新知見を踏まえて説明し、患者に意思決定してもらうための相談や情報提供を行う。

なんでも相談

看護部

月・水・金・土曜日の14:00～17:00（予約制）

不妊治療を行う上での不安・ストレスや悩み、治療についての質問、体外受精などのステップアップに関するアドバイスなど、多岐にわたる相談を受ける場を設けている。オリエンテーションルームで個別に相談ができるため、他者に話を聞かれる心配をせず、ゆったりと相談することができる。希望があればARTに関する相談や治療の内容についての説明を行っている。

なんでも相談

培養室（胚培養士資格保持者による相談）

診療時間中隨時（予約制）

体外受精における不安や疑問等の相談を隨時受け付けている。

その他

外来相談係（看護部）

医師の診察時に聞けなかった質問や、細かな訴えなどを傾聴し、説明・相談を行っている。また患者の電話での問い合わせにも対応している。

手術前説明(看護部)

手術を予定している患者に、手術前の問診・各種検査（胸写・心電図・肺機能検査・血液検査）を行い、パスを用いて入院から退院までのスケジュールの説明を行う。

手術前説明(院長)

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）
手術予定の1週間前までに夫婦で来院していただき、麻酔方法・手術内容について説明を行う。

手術後説明(院長)

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）
夫婦で来院していただき、手術時の映像（動画）を見ながら結果説明・今後の治療方針・治療計画の説明を行う。

ARTオリエンテーション(培養室)

(胚培養士資格保持者による説明)
体外受精初回時に体外受精の方法、流れについて説明を行う。

ARTに関する説明(培養室)

(胚培養士資格保持者による説明)
体外受精胚移植または融解胚移植前、医師による説明の後に、補足説明を行う。
全胚凍結した場合、医師による説明の後に、補足説明を行う。
体外受精後、移植または全胚凍結ができなかつた場合に医師による説明の後に、補足説明を行う。

ART結果説明後のお話し(看護部)

医師よりARTの結果についての説明のあと、今後の治療の流れについての説明を行う。

全体朝ミーティング

毎朝、診療開始前に外来にて、職員全員で朝ミーティングを行っている。受付より当日の診察内容毎の予約患者数、研究室・培養室より当日の採卵・胚移植・精液検査の予定、看護部より当日の手術予定、心理専門相談室より当日の相談予定、情報処理室より当日の学会や研究会の参加予定について報告している。職員全員が参加し、情報を共有することにより、全員が一日の診療の流れを把握することに役立ち、士気を高めることに繋がっている。

院内研修・ミーティング

毎週火曜日の午後、職員全員が参加し行っている。研究室・培養室より、研究結果の報告、海外論文詳読、各部署より報告事項や「ヒヤリ・ハット」を報告し、今後のために協議している。また、その週に治療を受ける患者について治療方針を話し合うなど、3時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者のケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、全員が発言する機会を作っている。

培養室朝ミーティング

毎朝、培養室にて、当日の採卵予定患者の検査結果、胚移植予定者、培養中の胚の観察結果報告、当日の業務の流れの確認を、医師を交えて行っている。

培養室ミーティング

1ヶ月に2回、培養室の職員全員で、日常業務の問題点や改善点、各々の研究テーマについての話し合い、学会報告、基礎知識に関する勉強会を行っている。

スタッフ配置

| | |
|-----------|---|
| 院 長 | 宇津宮隆史 |
| 医 局 | 伊東裕子、甲斐由布子 |
| 研究室・培養室 | 熊迫陽子、大津英子、長木美幸、後藤香里、城戸京子、神田晶子、小池恵、小林あやね、後藤厚子 |
| 看 護 部 | 後藤裕子、越光直子、川村智恵、松土留美、手島しおり、松元恵利子、足立直美、坂本順子、亀井里砂、北田奈津枝、戸高里美、宮田美紀、網中美咲、甲斐忍、大津仁美、渡辺千枝 |
| 心理専門相談室 | 雲井小夜子、上野桂子(非常勤) |
| 総 務 部 | 宇津宮富美子 |
| 受 付 | 越名久美、青木桜、瀬奈津美、川内玲菜、関洋美 |
| 情 報 処 理 室 | 安部里美、瀬戸口美和、魚住真由美 |
| 厨 房 | 矢野千恵美、油野亞由美 |

有資格者

| | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 | 宇津宮隆史、伊東裕子、甲斐由布子 |
| 日本産科婦人科学会産婦人科指導医 | 宇津宮隆史 |
| 日本生殖医学会生殖医療専門医 | 宇津宮隆史、伊東裕子、甲斐由布子 |
| 日本内視鏡外科学会技術認定医 | 宇津宮隆史 |
| 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 | 宇津宮隆史 |
| 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 | 宇津宮隆史 |
| 日本卵子学会および日本生殖医学会認定生殖補助医療管理胚培養士 | 熊迫陽子、大津英子、後藤香里 |
| 日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士 | 長木美幸、城戸京子、神田晶子、小池恵 |
| 日本生殖心理学会認定生殖心理カウンセラー | 雲井小夜子、上野桂子 |
| 日本生殖心理学会認定生殖医療相談士 | 後藤裕子、手島しおり、坂本順子、城戸京子、小池恵、青木桜 |
| 日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士 | 城戸京子 |
| 日本看護協会不妊症看護認定看護師 | 手島しおり |

病院概要

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|-------|----|-----|----|-----------|----|----|----|------------|----|-------|----|---------|----|-----|----|---------|----|-----|----|-----|-----|--|--|------|----|--|--|
| 名 称 | 医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開設年月日 | 1992年6月3日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住 所 | 〒870-0823 大分県大分市東大道1丁目4番5号 TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 許可病床数 | 13床 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職 員 数 | 総数41名 <table><tbody><tr><td>常勤医</td><td>3名</td><td>総務部</td><td>1名</td></tr><tr><td>公認心理師(常勤)</td><td>1名</td><td>受付</td><td>5名</td></tr><tr><td>公認心理師(非常勤)</td><td>1名</td><td>情報処理室</td><td>3名</td></tr><tr><td>研究室・培養室</td><td>4名</td><td>栄養士</td><td>1名</td></tr><tr><td>検査室・培養室</td><td>5名</td><td>調理士</td><td>1名</td></tr><tr><td>看護師</td><td>12名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>准看護師</td><td>4名</td><td></td><td></td></tr></tbody></table> | 常勤医 | 3名 | 総務部 | 1名 | 公認心理師(常勤) | 1名 | 受付 | 5名 | 公認心理師(非常勤) | 1名 | 情報処理室 | 3名 | 研究室・培養室 | 4名 | 栄養士 | 1名 | 検査室・培養室 | 5名 | 調理士 | 1名 | 看護師 | 12名 | | | 准看護師 | 4名 | | |
| 常勤医 | 3名 | 総務部 | 1名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公認心理師(常勤) | 1名 | 受付 | 5名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公認心理師(非常勤) | 1名 | 情報処理室 | 3名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究室・培養室 | 4名 | 栄養士 | 1名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 検査室・培養室 | 5名 | 調理士 | 1名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 看護師 | 12名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 准看護師 | 4名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 診療時間 (受付予約制) | 月・水・金： 8:30～11:30 13:30～15:30 17:00～18:30 火・土： 8:30～11:30 (祝日を除く) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

〈本年報の集計も SarahBase を用いました〉

St.Luke 2019年 年報

2020年6月 発行

発 行：医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集：宇津宮 隆史
〒870-0823
大分県大分市東大道1丁目4番5号
TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

